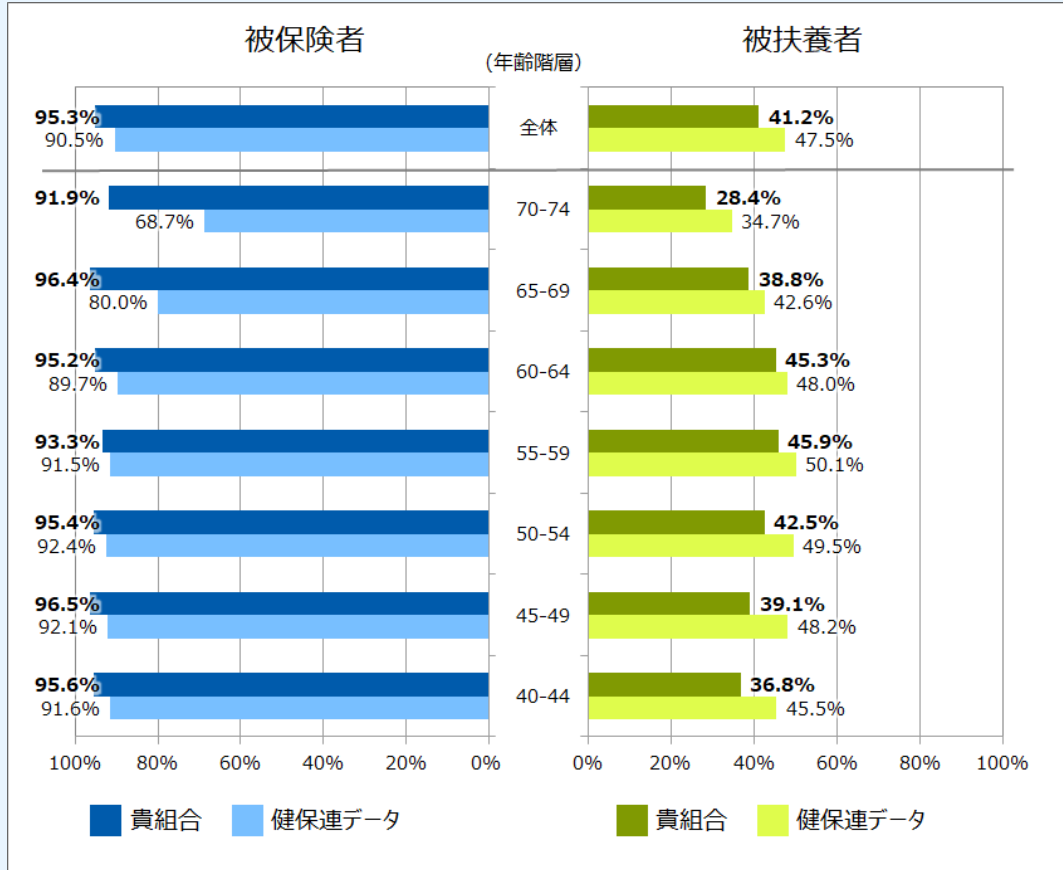


3. 健診に関する分析

(1) 健診受診状況（被保険者／被扶養者）

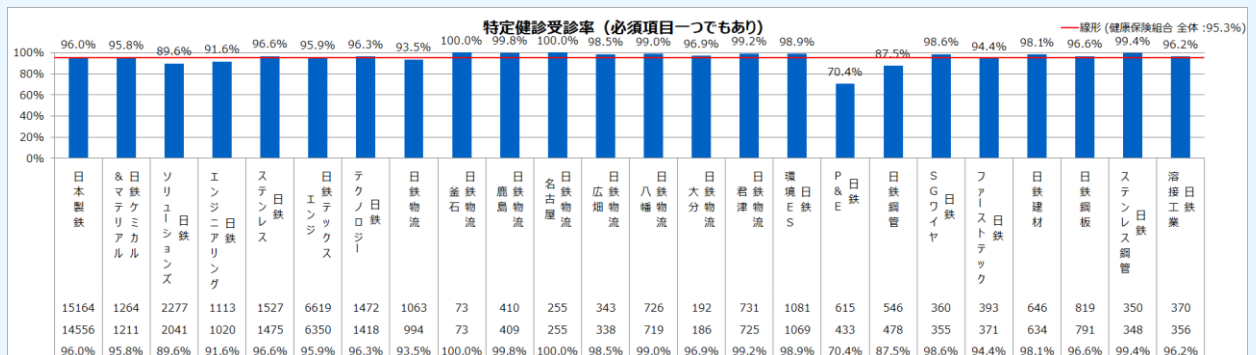
- 特定健診受診率については、被保険者では「95.3%」で、健保連データを「4.8ポイント」上回っています。
- 被扶養者では「41.2%」で、健保連データを「6.3ポイント」下回っています。

■ 被扶区別特定健診受診率 健保連データとの比較 別冊1（40歳以上） P.12



健診受診状況

■ 事業所別特定健診受診率（集計対象：被保険者） 別冊2



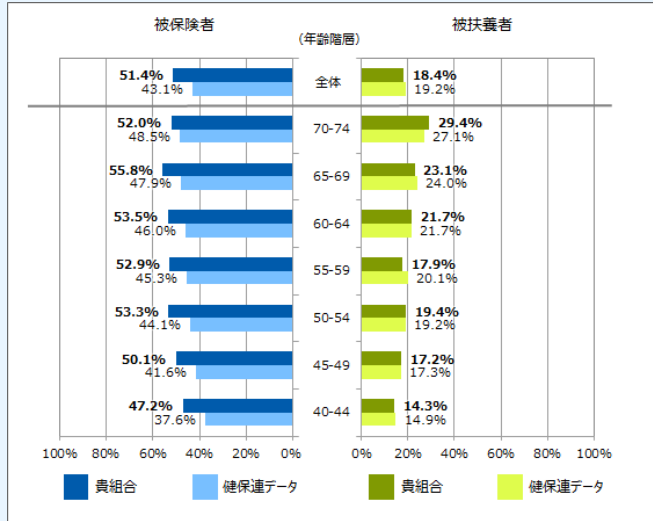
3. 健診に関する分析

(2) 健診検査値の状況（肥満リスク）

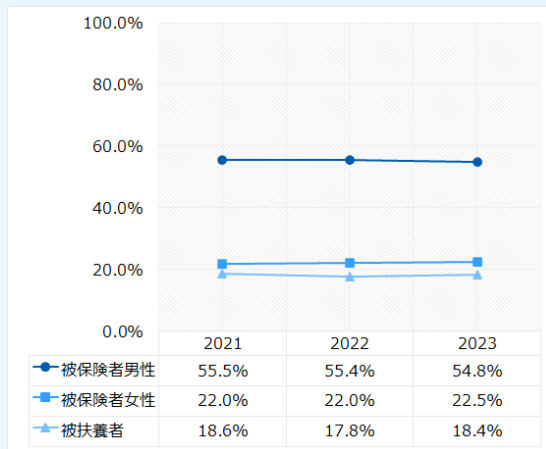
- 肥満リスクの該当者率については、被保険者全体では「51.4%」で、健保連データを「8.3ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。また、すべての年齢層で健保連データよりも高い水準です。
- 被扶養者全体では「18.4%」で、健保連データを「0.8ポイント」下回っています。

※65-69歳、70-74歳については記述していません。

■ 肥満リスクの該当者率 健保連データとの比較 別冊1（40歳以上） P.16



■ 肥満リスクの該当者率 経年比較 別冊1（40歳以上） P.26



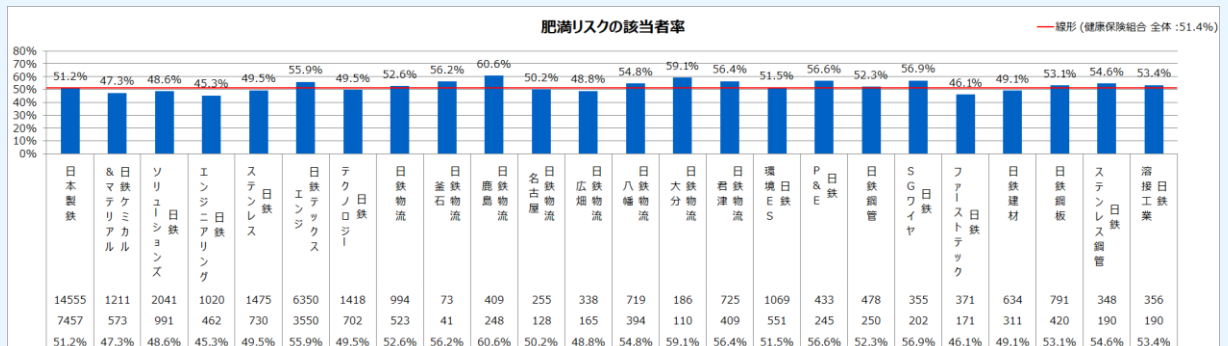
肥満	
腹囲	男性：腹囲 85以上 女性：腹囲 90以上
BMI	男性：腹囲 85未満 かつ BMI 25以上 女性：腹囲 90未満 かつ BMI 25以上

肥満リスク該当者は、上記いずれかのリスク条件の該当者

※上段と中段のグラフについて

上段の年齢階層データは各リスク項目に使用する複数の健診値のうち、いずれかを保持している方を分母とし、中段の経年データは複数の健診値のうちすべてを保持している方を分母としているため、該当者率が異なる場合があります。

■ 肥満リスクの該当者率 事業所ごと（集計対象：被保険者） 別冊2



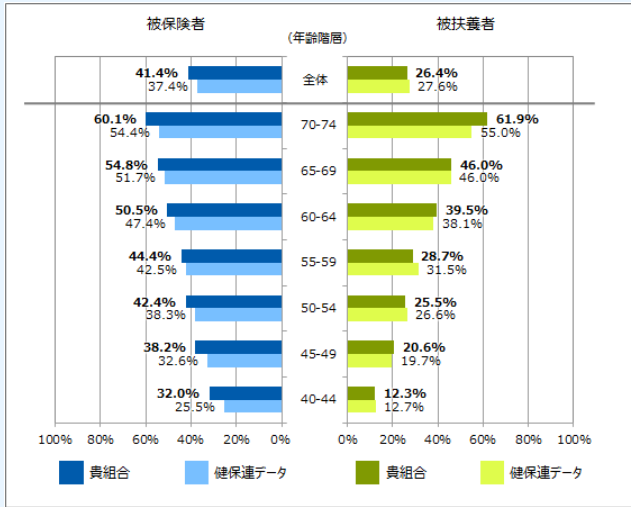
3. 健診に関する分析

(2) 健診検査値の状況（血压リスク）

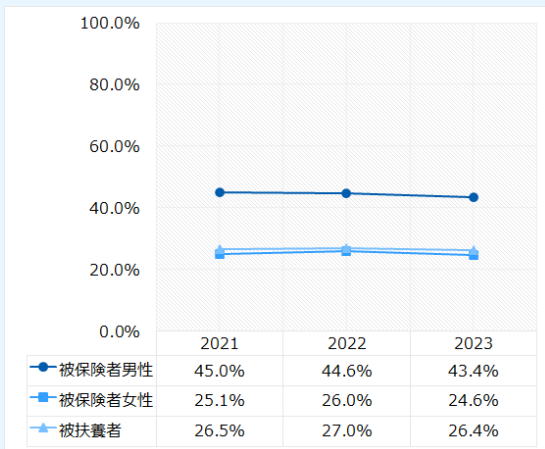
- 血压リスクの該当者率については、被保険者全体では「41.4%」で、健保連データを「4.0ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。特に「40-44歳」「45-49歳」「50-54歳」の年齢層で健保連データよりも高い水準です。
- 被扶養者全体では「26.4%」で、健保連データを「1.2ポイント」下回っています。
- 事業所間で比較すると、「日鉄物流名古屋」が高い水準にあります。

※65-69歳、70-74歳については記述していません。

■ 血压リスクの該当者率 健保連データとの比較 別冊1（40歳以上） P.16



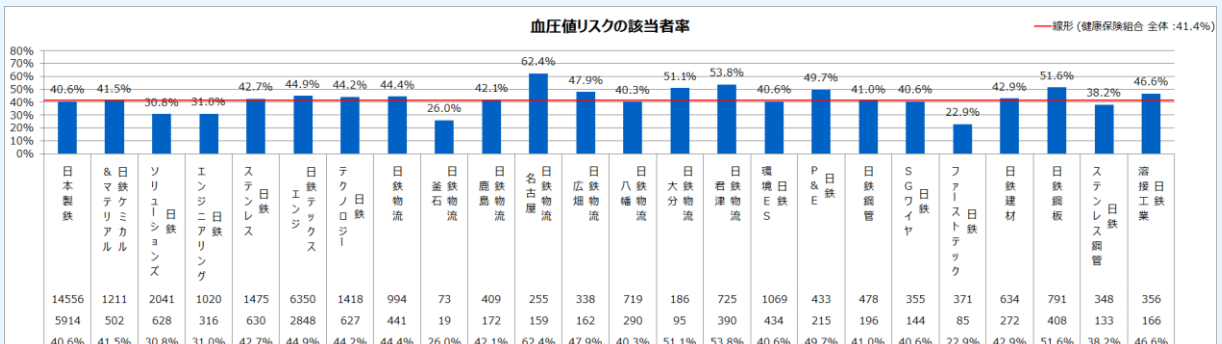
■ 血压リスクの該当者率 経年比較 別冊1（40歳以上） P.26



	正常域	保健指導	受診勧奨1	受診勧奨2
収縮期血压	130未満	130以上 140未満	140以上 160未満	160以上
拡張期血压	85未満	85以上 90未満	90以上 100未満	100以上

血压リスク該当者は、保健指導以上の区分該当者
(収縮期血压 130以上 または 拡張期血压 85以上)

■ 血压リスクの該当者率 事業所ごと（集計対象：被保険者） 別冊2



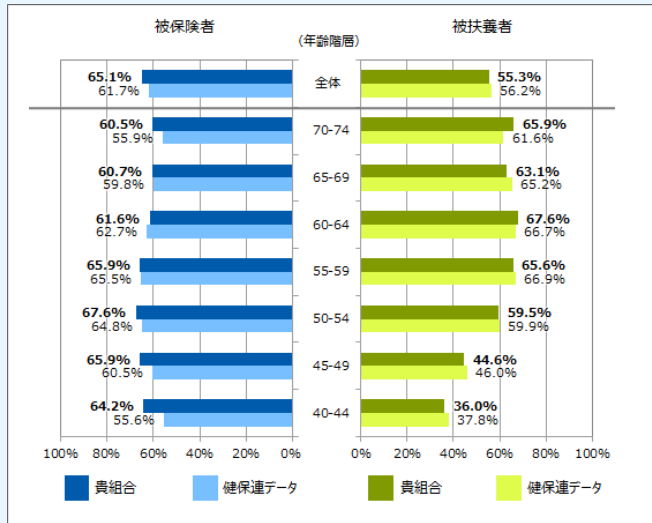
3. 健診に関する分析

(2) 健診検査値の状況（脂質リスク）

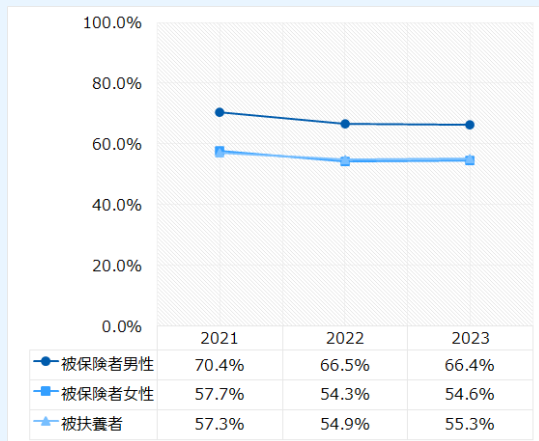
- 脂質リスクの該当者率については、被保険者全体では「65.1%」で、健保連データを「3.4ポイント」上回っています。
- 被扶養者全体では「55.3%」で、健保連データを「0.9ポイント」下回っています。
- 直近三カ年では、被保険者男性はわずかに減少傾向です。

※65-69歳、70-74歳については記述していません。

■ 脂質リスクの該当者率 健保連データとの比較 別冊1（40歳以上） P.16



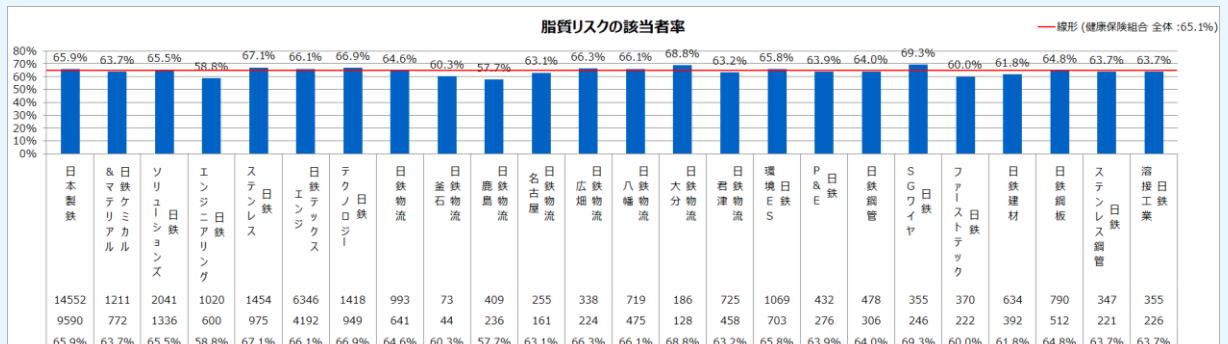
■ 脂質リスクの該当者率 経年比較 別冊1（40歳以上） P.26



	正常値	保健指導	受診勧奨1	受診勧奨2
HDL コレステロール	40以上	40未満	-	-
LDL コレステロール	120未満	120以上 140未満	140以上 180未満	180以上
中性脂肪	150未満	150以上 300未満	300以上 500未満	500以上

脂質リスク該当者は、保健指導以上の区分該当者
 (HDLコレステロール 40未満 または
 LDLコレステロール 120以上 または 中性脂肪 150以上)

■ 脂質リスクの該当者率 事業所ごと（集計対象：被保険者） 別冊2



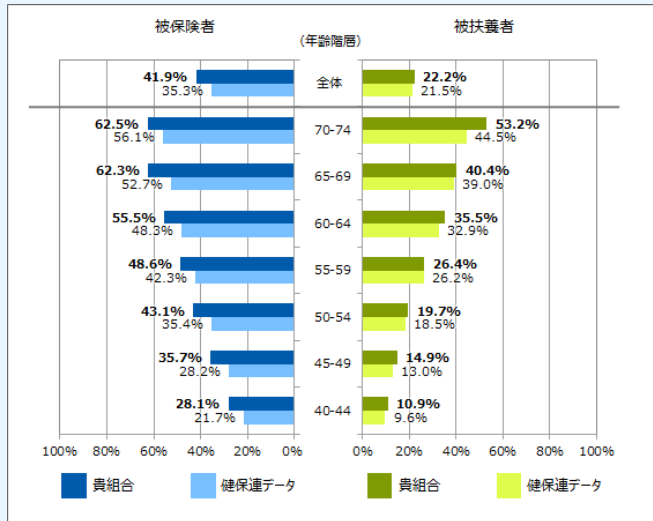
3. 健診に関する分析

(2) 健診検査値の状況（血糖リスク）

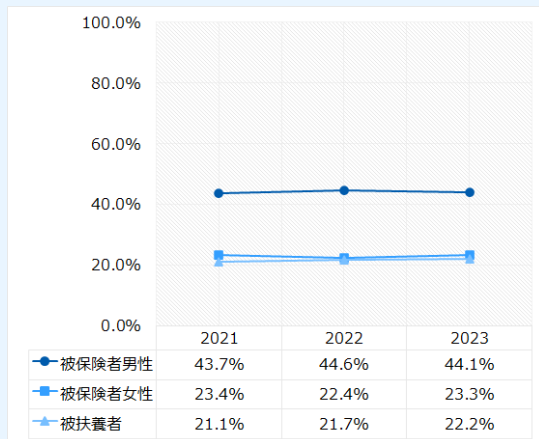
- 血糖リスクの該当者率については、被保険者全体では「41.9%」で、健保連データを「6.6ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。また、すべての年齢層で健保連データよりも高い水準です。
- 被扶養者全体では「22.2%」で、健保連データを「0.7ポイント」上回っています。
- 事業所間で比較すると、「日鉄物流鹿島」「日鉄物流釜石」が高い水準にあります。

※65-69歳、70-74歳については記述していません。

■ 血糖リスクの該当者率 健保連データとの比較 別冊1（40歳以上） P.16



■ 血糖リスクの該当者率 経年比較 別冊1（40歳以上） P.26

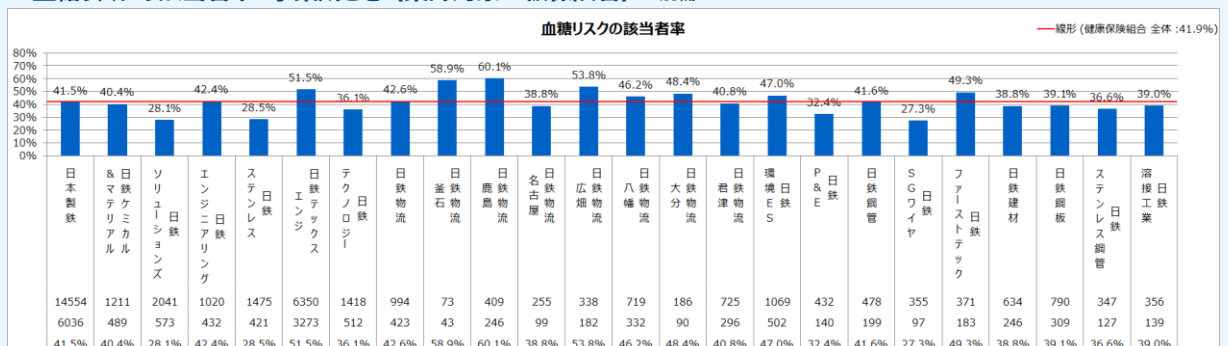


	正常域	保健指導1	保健指導2	受診勧奨
空腹時血糖	100未満	100以上 110未満	110以上 126未満	126以上
Hba1c (NGSP)	5.6未満	5.6以上 6.0未満	6.0以上 6.5未満	6.5以上
随時血糖	100未満	100以上 110未満	110以上 126未満	126以上

血糖リスク者は保健指導以上の区分該当者

(空腹時血糖 100以上 または
空腹時血糖のデータがないとき HbA1c 5.6以上 または
空腹時血糖のデータがない かつ HbA1cのデータがないとき 随時血糖 100以上)

■ 血糖リスクの該当者率 事業所ごと（集計対象：被保険者） 別冊2



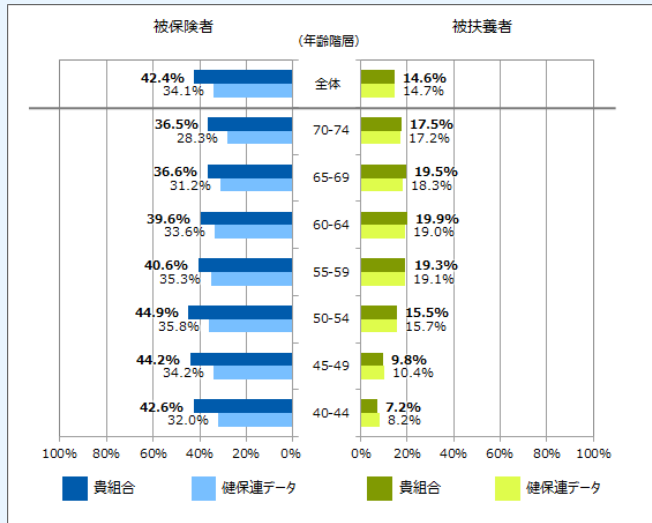
3. 健診に関する分析

(2) 健診検査値の状況（肝機能リスク）

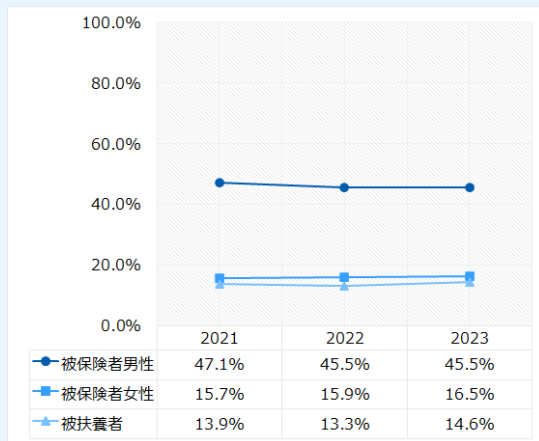
- 肝機能リスクの該当者率については、被保険者全体では「42.4%」で、健保連データを「8.3ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。また、すべての年齢層で健保連データよりも高い水準です。
- 被扶養者全体では「14.6%」で、健保連データを「0.1ポイント」下回っています。
- 事業所間で比較すると、「日鉄物流釜石」「日鉄物流大分」が高い水準にあります。

※65-69歳、70-74歳については記述していません。

■ 肝機能リスクの該当者率 健保連データとの比較 別冊1（40歳以上） P.17



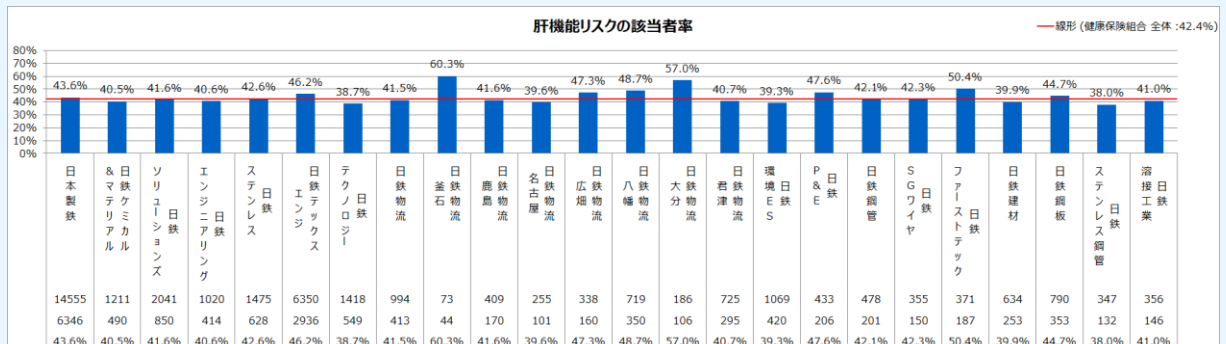
■ 肝機能リスクの該当者率 経年比較 別冊1（40歳以上） P.26



	正常域	保健指導	受診勧奨
GOT (AST)	31未満	31以上 51未満	51以上
GPT (ALT)	31未満	31以上 51未満	51以上
γ-GT (γ-GTP)	51未満	51以上 101未満	101以上

肝機能リスク者は保健指導以上の区分該当者 (GOT・GPT 31以上 または γ-GT 51以上)

■ 肝機能リスクの該当者率 事業所ごと（集計対象：被保険者） 別冊2



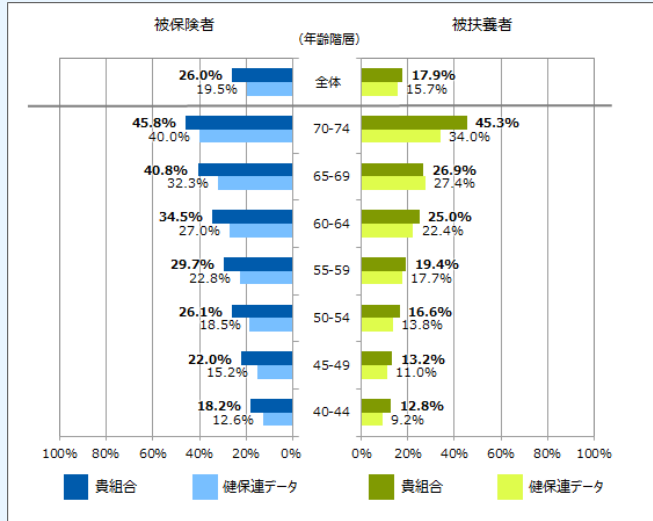
3. 健診に関する分析

(2) 健診検査値の状況（腎機能リスク）

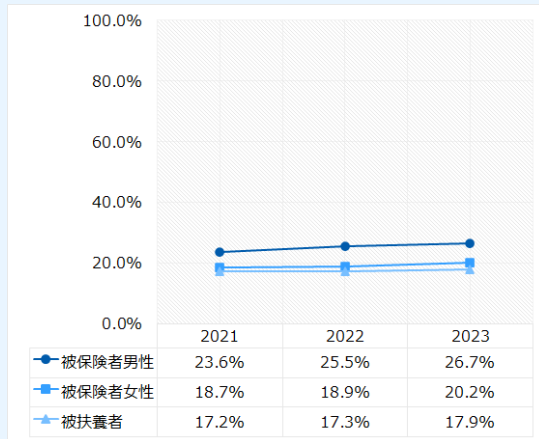
- 腎機能リスクの該当者率については、被保険者全体では「26.0%」で、健保連データを「6.5ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。また、すべての年齢層で健保連データよりも高い水準です。
- 被扶養者全体では「17.9%」で、健保連データを「2.2ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。
- 直近三カ年では、被保険者男性・女性はわずかに増加傾向です。
- 事業所間で比較すると、「日鉄物流名古屋」「日鉄物流釜石」が高い水準にあります。

※65-69歳、70-74歳については記述していません。

■ 腎機能リスクの該当者率 健保連データとの比較 別冊1（40歳以上） P.17



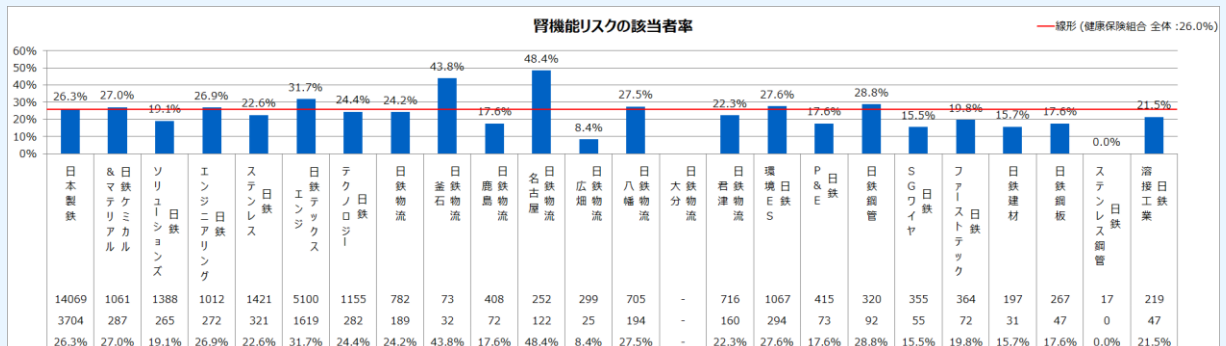
■ 腎機能リスクの該当者率 経年比較 別冊1（40歳以上） P.26



	正常域	保健指導	受診勧奨
eGFR	eGFR 60以上	eGFR 45以上 かつ 尿蛋白 +-	eGFR 45未満 又は 尿蛋白 1+以上
尿蛋白	尿蛋白 -	eGFR 45以上60未満 かつ 尿蛋白 -	

腎機能リスク者は保健指導以上の区分該当者
(eGFR 45以上 かつ 尿蛋白 +- または
eGFR 45以上60未満 かつ 尿蛋白 -)

■ 腎機能リスクの該当者率 事業所ごと（集計対象：被保険者） 別冊2



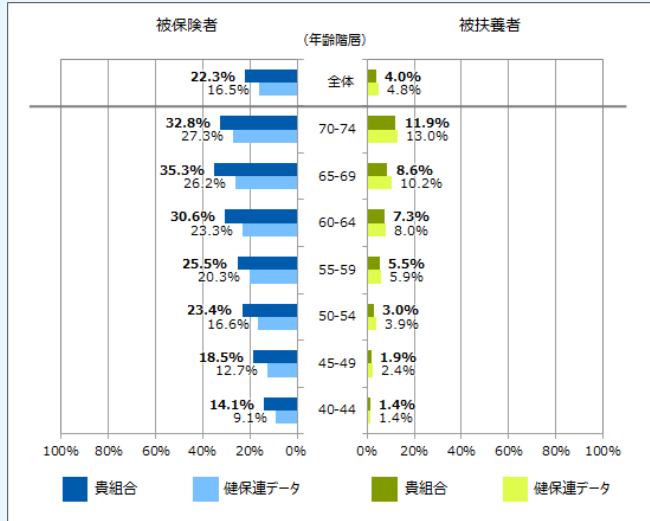
3. 健診に関する分析

(3) メタボリックシンドロームの状況

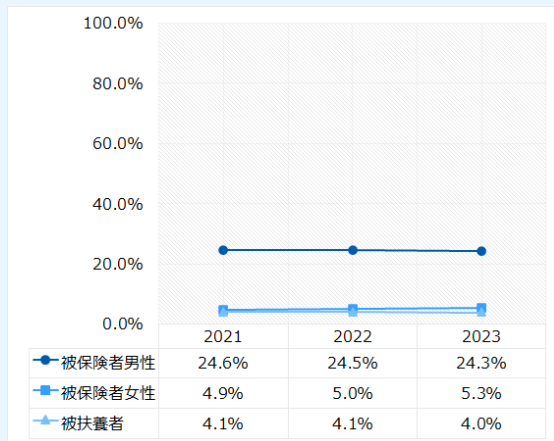
- メタボリックシンドローム該当者率については、被保険者全体では「22.3%」で、健保連データを「5.8ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。また、すべての年齢層で健保連データよりも高い水準です。
- 被扶養者全体では「4.0%」で、健保連データを「0.8ポイント」下回っており、低い水準と評価できます。
- 事業所間で比較すると、「日鉄物流大分」が高い水準にあります。

※65-69歳、70-74歳については記述していません。

■ メタボリックシンドローム該当者率 健保連データとの比較 別冊1 (40歳以上) P.18



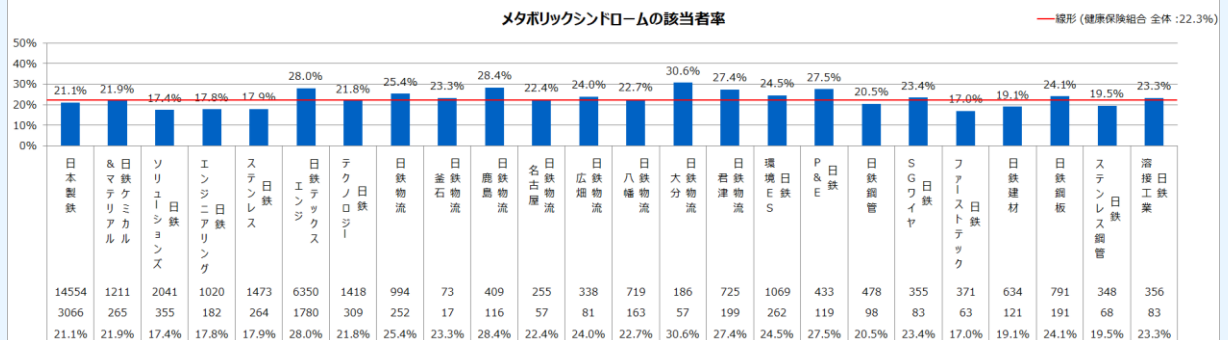
■ メタボリックシンドローム該当者率 経年比較 別冊1 (40歳以上) P.27



リスク項目	リスク判定基準
腹囲	男性：腹囲>=85cm
	女性：腹囲>=90cm
血圧 ①②③のいずれかに当てはまる場合	①収縮期血圧：>=130mmHg
	②拡張期血圧：>=85mmHg
	③薬剤治療を受けている（問診より）
脂質 ①②③のいずれかに当てはまる場合	①中性脂肪：>=150mg/dL
	②HDLコレステロール：<40mg/dL
	③薬剤治療を受けている（問診より）
血糖 ①②③のいずれかに当てはまる場合	①空腹時血糖：>=110mg/dL
	②HbA1c：>=6.0%
	③薬剤治療を受けている（問診より）

メタボリックシンドローム該当者は上記リスク項目の「腹囲」に該当し、かつ「血圧」「脂質」「血糖」のうち2つ以上のリスクに当てはまる者

■ メタボリックシンドローム該当者率 事業所ごと（集計対象：被保険者） 別冊2



メタボリックシンドローム該当者

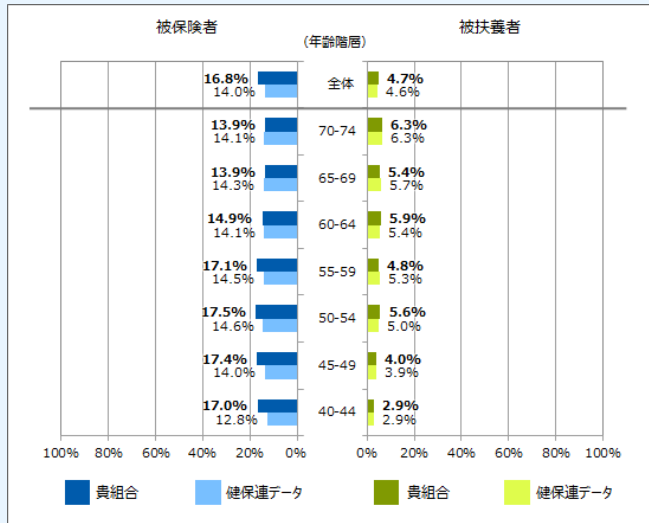
3. 健診に関する分析

(3) メタボリックシンドロームの状況

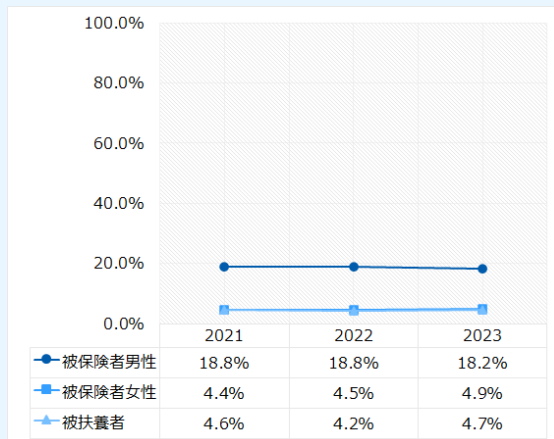
- メタボリックシンドローム予備群者率については、被保険者全体では「16.8%」で、健保連データを「2.8ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。
- 被扶養者全体では「4.7%」で、健保連データを「0.1ポイント」上回っています。
- 事業所間で比較すると、「日鉄物流鹿島」が高い水準にあります。

※65-69歳、70-74歳については記述していません。

■ メタボリックシンドローム予備群者率 健保連データとの比較 別冊1 (40歳以上) P.18



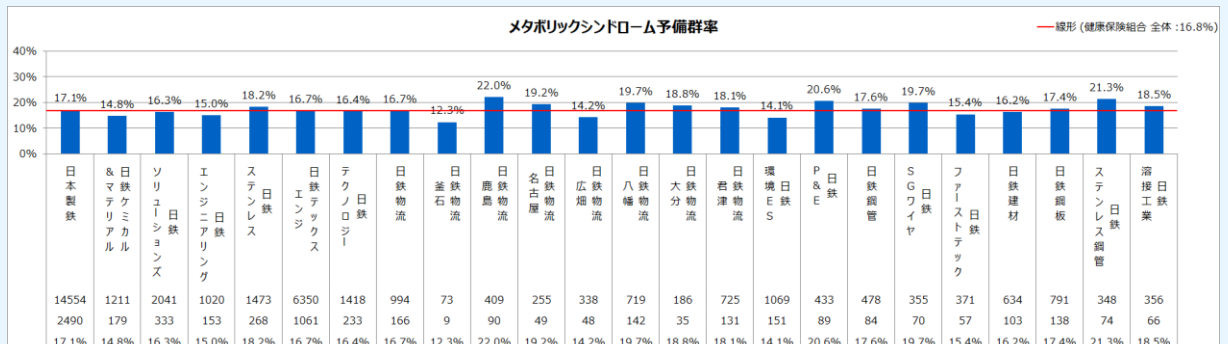
■ メタボリックシンドローム予備群者率 経年比較 別冊1 (40歳以上) P.27



リスク項目	リスク判定基準
腹囲	男性：腹囲 ≥ 85cm
	女性：腹囲 ≥ 90cm
血圧 ①②③のいずれかに当てはまる場合	①収縮期血圧： ≥ 130mmHg
	②拡張期血圧： ≥ 85mmHg
	③薬剤治療を受けている（問診より）
脂質 ①②③のいずれかに当てはまる場合	①中性脂肪： ≥ 150mg/dL
	②HDLコレステロール： < 40mg/dL
	③薬剤治療を受けている（問診より）
血糖 ①②③のいずれかに当てはまる場合	①空腹時血糖： ≥ 110mg/dL
	②HbA1c： ≥ 6.0%
	③薬剤治療を受けている（問診より）

メタボリックシンドローム予備群該当者は上記リスク項目の「腹囲」に該当し、かつ「血圧」「脂質」「血糖」のうち1つのリスクに当てはまる者

■ メタボリックシンドローム予備群者率 事業所ごと（集計対象：被保険者） 別冊2



メタボリックシンドローム予備群者

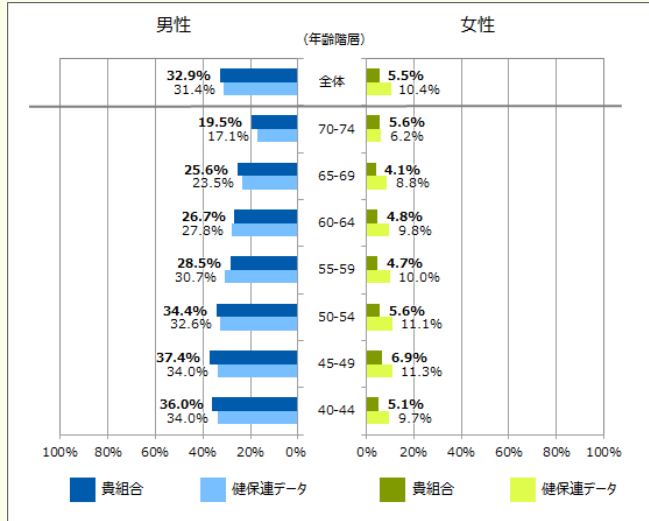
3. 健診に関する分析

(5) 問診回答の状況（喫煙リスク）

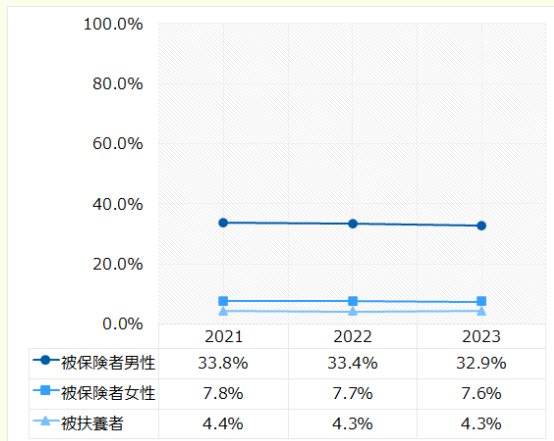
- 喫煙リスクの該当者率については、男性では「32.9%」で、健保連データを「1.5ポイント」上回っています。
- 女性では「5.5%」で、健保連データを「4.9ポイント」下回っており、低い水準と評価できます。また、すべての年齢層で健保連データよりも低い水準です。
- 事業所間で比較すると、「日鉄物流釜石」「日鉄物流大分」「日鉄物流鹿島」が高い水準にあります。

※65-69歳、70-74歳については記述していません。

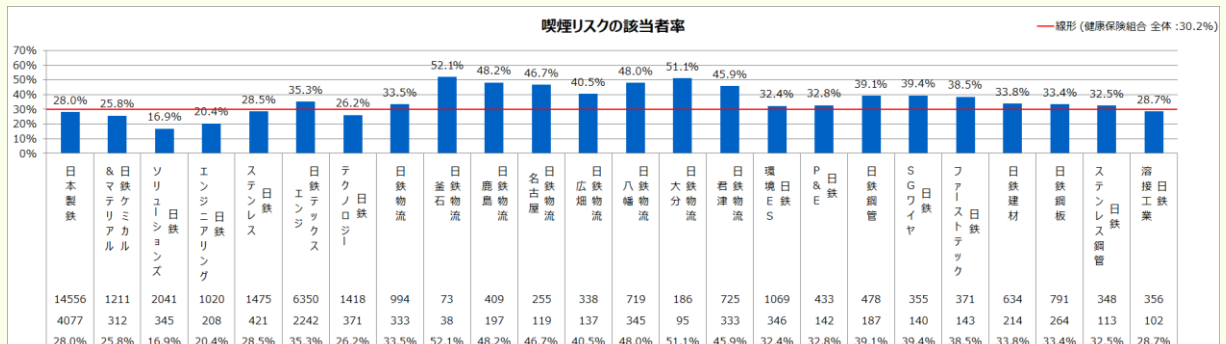
■ 喫煙リスクの該当者率 健保連データとの比較 別冊1（40歳以上） P.23



■ 喫煙リスクの該当者率 経年比較 別冊1（40歳以上） P.29



■ 喫煙リスクの該当者率 事業所ごと（集計対象：被保険者） 別冊2



現在、たばこを習慣的に吸っている（はい）

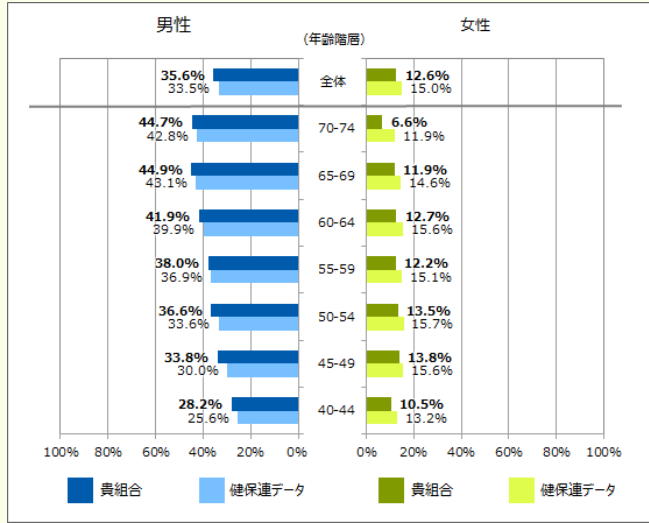
3. 健診に関する分析

(5) 問診回答の状況（飲酒頻度リスク）

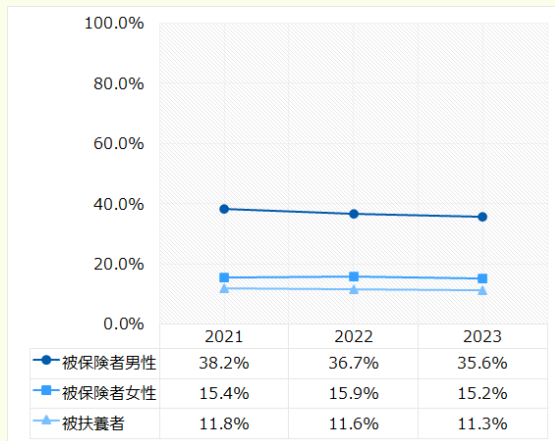
- 飲酒頻度リスクの該当者率については、男性では「35.6%」で、健保連データを「2.1ポイント」上回っています。
 - 女性では「12.6%」で、健保連データを「2.4ポイント」下回っており、低い水準と評価できます。また、すべての年齢層で健保連データよりも低い水準です。
 - 直近三カ年では、被保険者男性はわずかに減少傾向です。
 - 事業所間で比較すると、「日鉄物流釜石」が高い水準にあります。
- ※65-69歳、70-74歳については記述していません。

お酒（日本酒、焼酎、ビール、洋酒など）を飲む頻度（毎日）

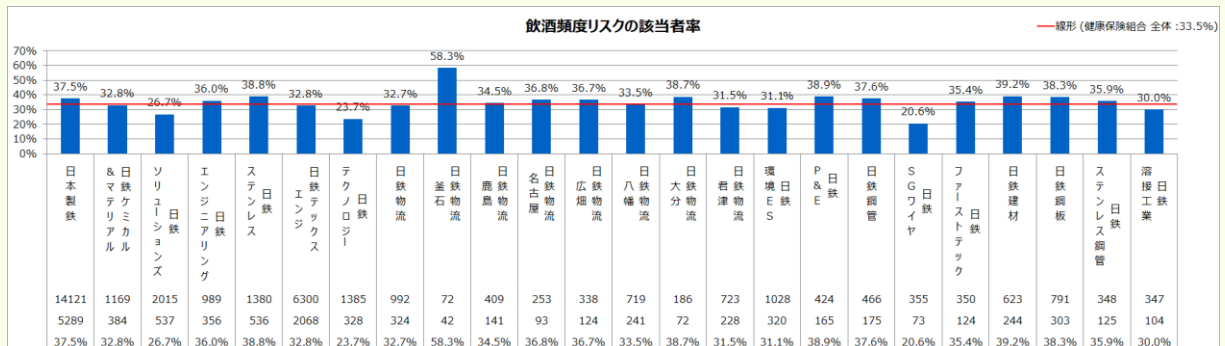
■ 飲酒頻度リスクの該当者率 健保連データとの比較 別冊1（40歳以上） P.23



■ 飲酒頻度リスクの該当者率 経年比較 別冊1（40歳以上） P.29



■ 飲酒頻度リスクの該当者率 事業所ごと（集計対象：被保険者） 別冊2

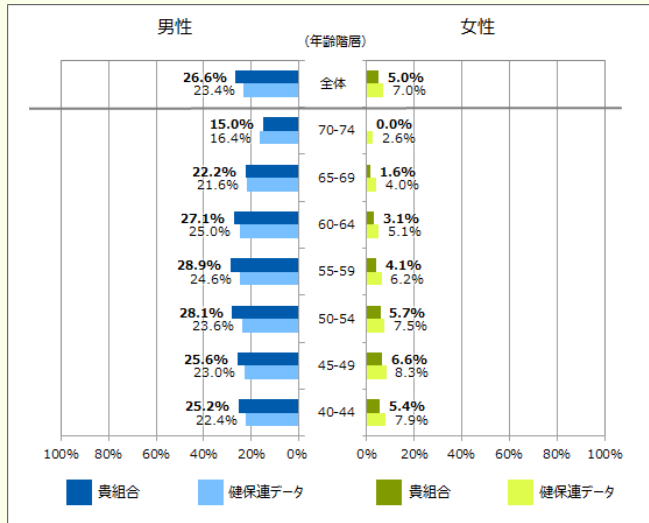


3. 健診に関する分析

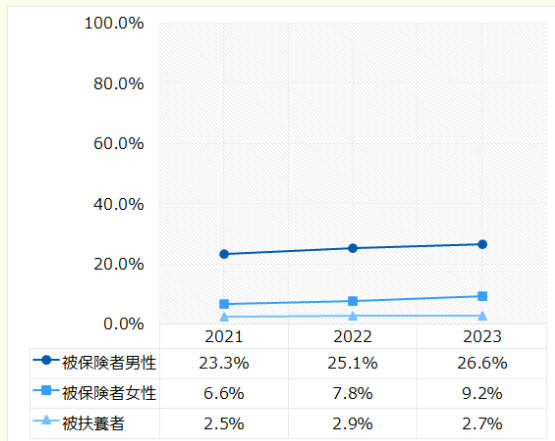
(5) 問診回答の状況（飲酒量リスク）

- 飲酒量リスクの該当者率については、男性では「26.6%」で、健保連データを「3.2ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。特に「40-44歳」「45-49歳」「50-54歳」「55-59歳」の年齢層で健保連データよりも高い水準です。
- 女性では「5.0%」で、健保連データを「2.0ポイント」下回っており、低い水準と評価できます。また、すべての年齢層で健保連データよりも低い水準です。
- 直近三カ年では、被保険者男性・女性でわずかに増加傾向です。
- 事業所間で比較すると、「日鉄物流釜石」「日鉄エンジニアリング」が高い水準にあります。
※65-69歳、70-74歳については記述していません。

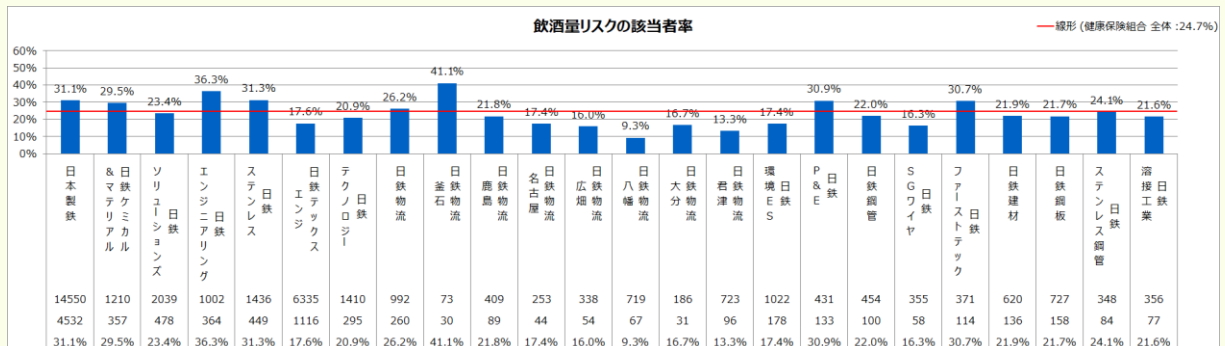
■ 飲酒量リスクの該当者率 健保連データとの比較 別冊1（40歳以上） P.23



■ 飲酒量リスクの該当者率 経年比較 別冊1（40歳以上） P.29



■ 飲酒量リスクの該当者率 事業所ごと（集計対象：被保険者） 別冊2



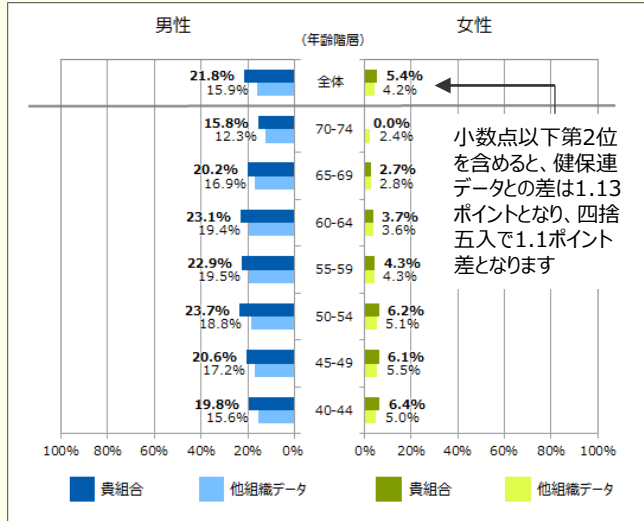
飲酒日の1日当たりの飲酒量（2〜3合未満・3合以上）

3. 健診に関する分析

(5) 問診回答の状況（飲酒習慣リスク）

- 飲酒習慣リスクの該当者率については、男性では「21.8%」で、健保連データを「5.9ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。また、すべての年齢層で健保連データよりも高い水準です。
- 女性では「5.4%」で、健保連データを「1.1ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。
- 直近三カ年では、被保険者男性・女性は増加傾向です。
- 事業所間で比較すると、「日鉄物流釜石」「日鉄ステンレス」「日鉄エンジニアリング」が高い水準にあります。
※65-69歳、70-74歳については記述していません。

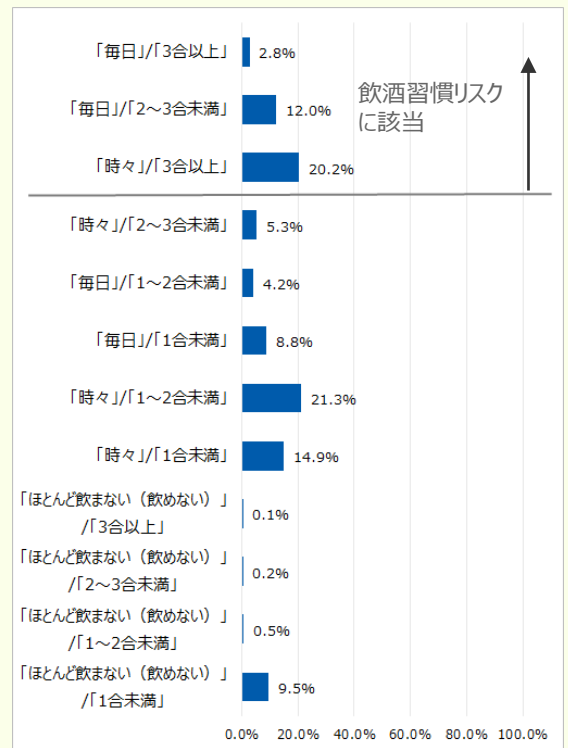
■ 飲酒習慣リスクの該当者率 健保連データとの比較 別冊1（40歳以上） P.24-25



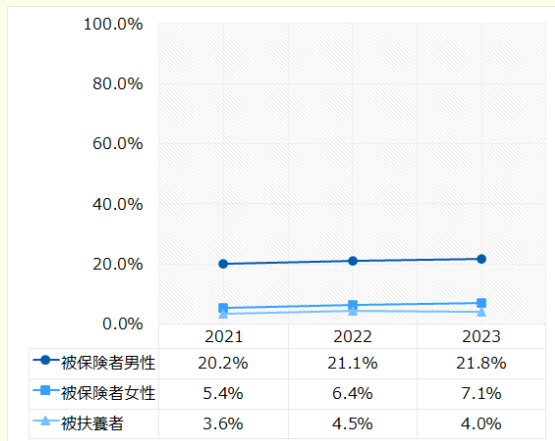
※「多量飲酒群」の該当基準

問診項目	「多量飲酒群」の判定基準
お酒を飲む頻度	①飲酒頻度が「毎日」で1日あたり飲酒量が「2合以上」
1日あたりの飲酒量	②飲酒頻度が「時々」で1日あたり飲酒量が「3合以上」

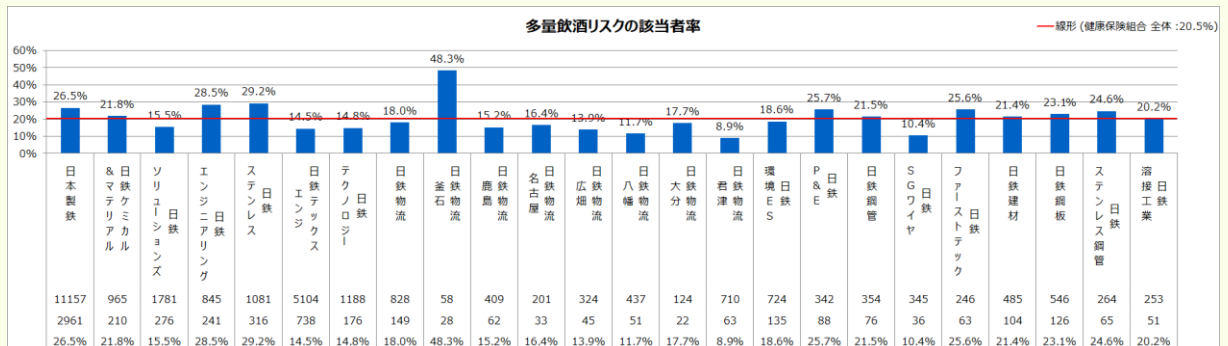
■ 「多量飲酒群」の該当項目の保有割合 別冊1（40歳以上） P.25



■ 飲酒習慣リスクの該当者率 経年比較 別冊1（40歳以上） P.30



■ 飲酒習慣リスクの該当者率 事業所ごと（集計対象：被保険者） 別冊2



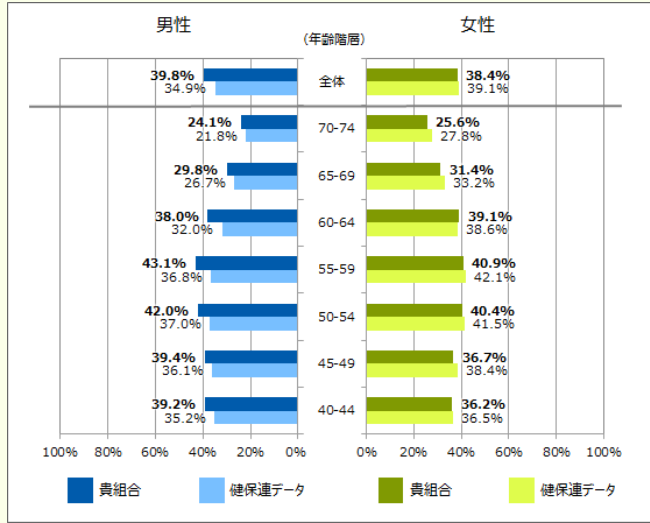
飲酒習慣リスク該当者（※「多量飲酒群」に該当する者の数）

3. 健診に関する分析

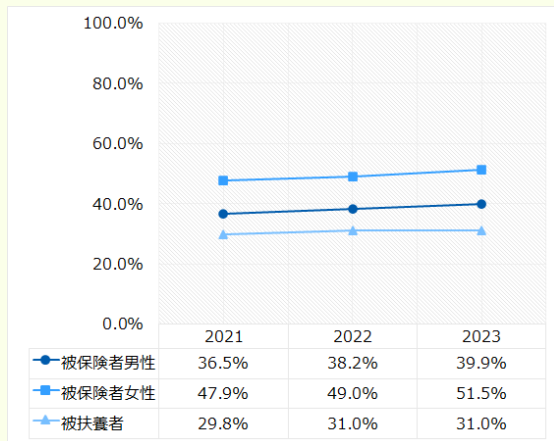
(5) 問診回答の状況（睡眠リスク）

- 睡眠リスクの該当者率については、男性では「39.8%」で、健保連データを「4.9ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。特に「40-44歳」「50-54歳」「55-59歳」「60-64歳」の年齢層で健保連データよりも高い水準です。
 - 女性では「38.4%」で、健保連データを「0.7ポイント」下回っています。
 - 直近三カ年では、被保険者男性・女性は増加傾向です。
 - 事業所間で比較すると、「日鉄鋼管」が高い水準にあります。
- ※65-69歳、70-74歳については記述していません。

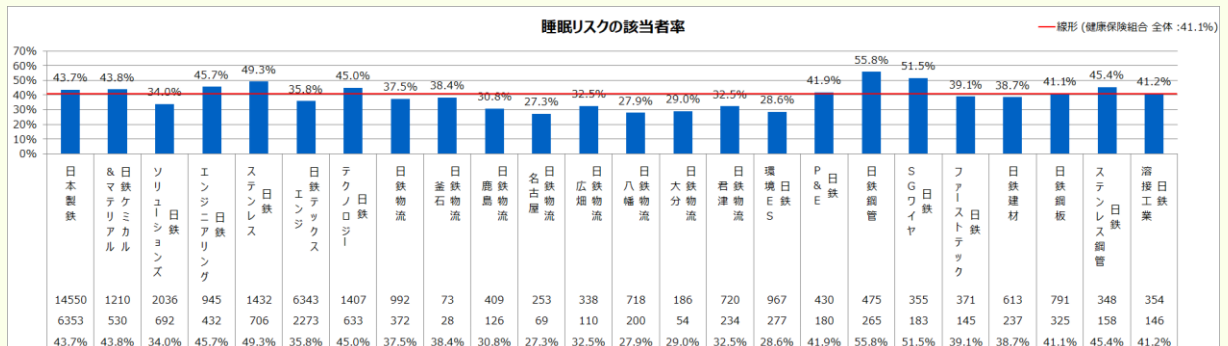
■ 睡眠リスクの該当者率 健保連データとの比較 別冊1（40歳以上） P.23



■ 睡眠リスクの該当者率 経年比較 別冊1（40歳以上） P.29



■ 睡眠リスクの該当者率 事業所ごと（集計対象：被保険者） 別冊2



睡眠で休養が十分とれている(いいえ)

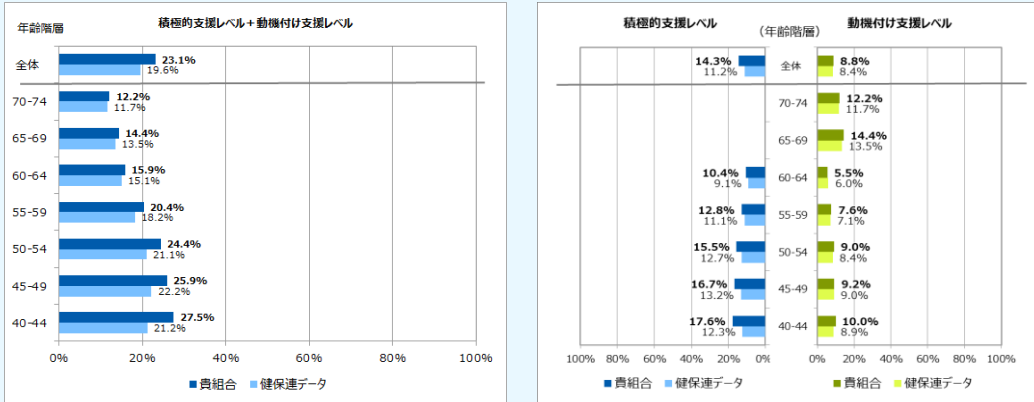
4. 特定保健指導に関する分析

(1) 特定保健指導対象者の割合（被保険者）

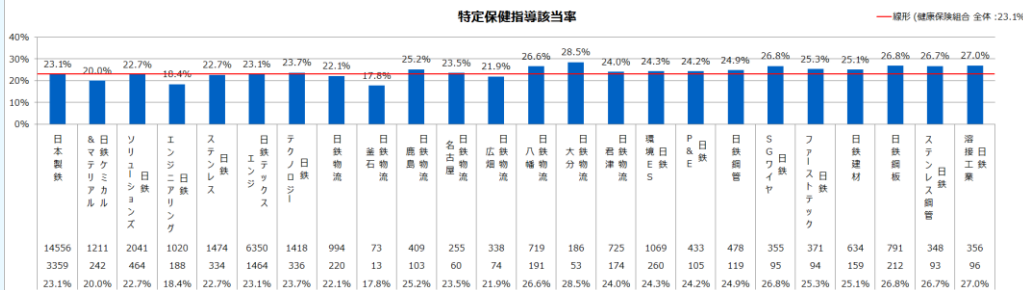
- 被保険者の特定保健指導対象者の割合については、積極的支援+動機付け支援全体では「23.1%」で、健保連データを「3.5ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。特に「40-44歳」「45-49歳」「50-54歳」「55-59歳」の年齢層で健保連データよりも高い水準です。
- 積極的支援では「14.3%」で、動機付け支援では「8.8%」です。
- 事業所間で比較すると、積極的支援では「日鉄物流大分」「日鉄物流八幡」「日鉄物流鹿島」が高い水準にあります。動機付け支援では「日鉄溶接工業」が高い水準にあります。

※65-69歳、70-74歳については記述していません。

■ 特定保健指導対象者の割合（集計対象：被保険者） 別冊1（40歳以上） P.33

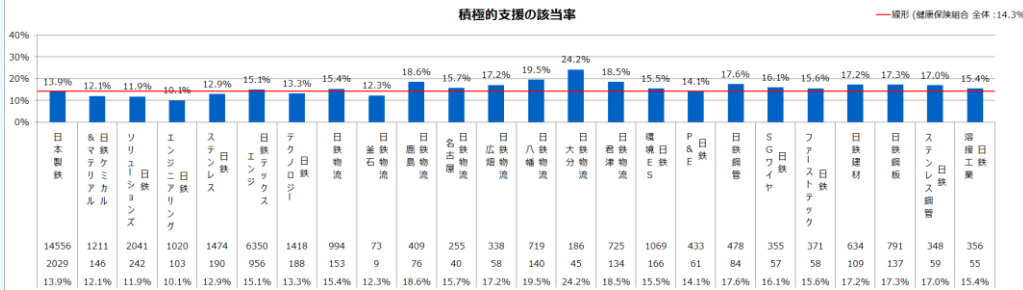


■ 特定保健指導対象者の割合 事業所別（集計対象：被保険者） 別冊2

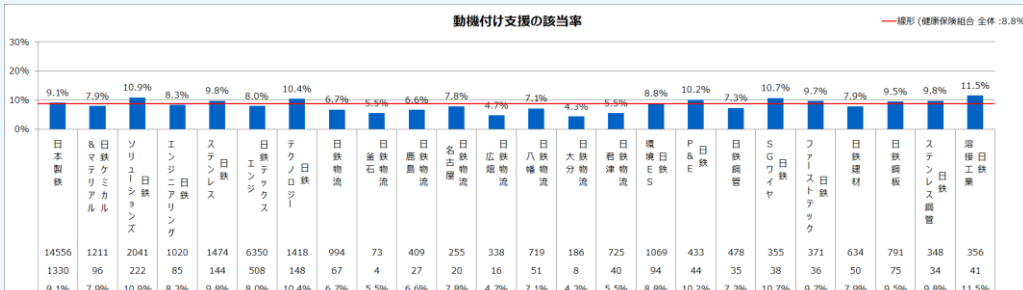


特定保健指導

■ 特定保健指導対象者の割合 事業所別【積極的支援レベル】（集計対象：被保険者） 別冊2



■ 特定保健指導対象者の割合 事業所別【動機付け支援レベル】（集計対象：被保険者） 別冊2



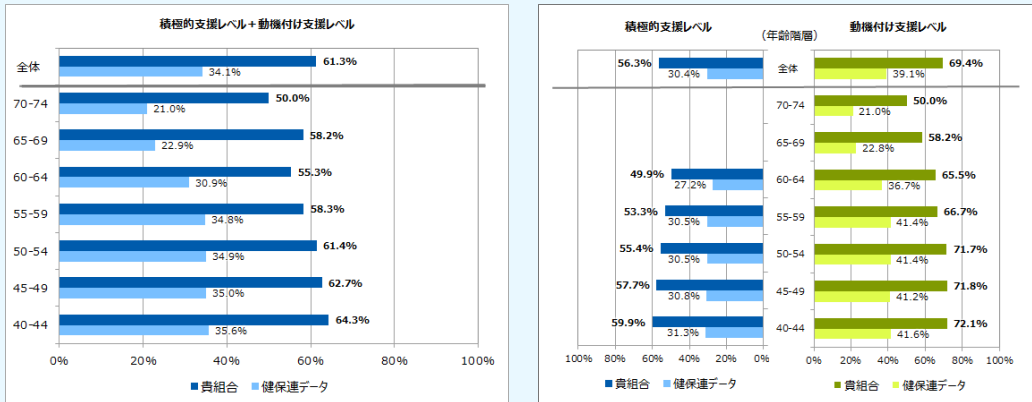
4. 特定保健指導に関する分析

(2) 特定保健指導実施率（被保険者）

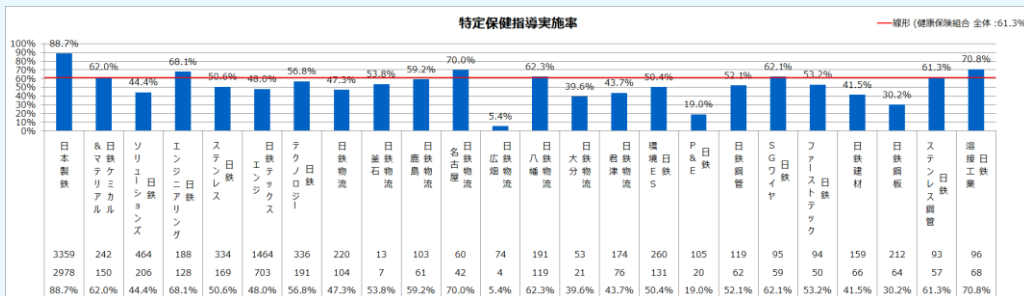
- 被保険者の特定保健指導実施率については、積極的支援+動機付け支援全体では「61.3%」で、健保連データを「27.2ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。また、すべての年齢層で健保連データよりも高い水準です。
- 積極的支援では「56.3%」で、健保連データを「25.9ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。また、すべての年齢層で健保連データよりも高い水準です。動機付け支援では「69.4%」で、健保連データを「30.3ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。また、すべての年齢層で健保連データよりも高い水準です。
- 事業所間で比較すると、積極的支援+動機付け支援では「日本製鉄」が高い水準にあります。
- 動機付け支援では「日鉄物流釜石」「日鉄物流名古屋」「日鉄物流鹿島」が高い水準にあります。

※65-69歳、70-74歳については記述していません。

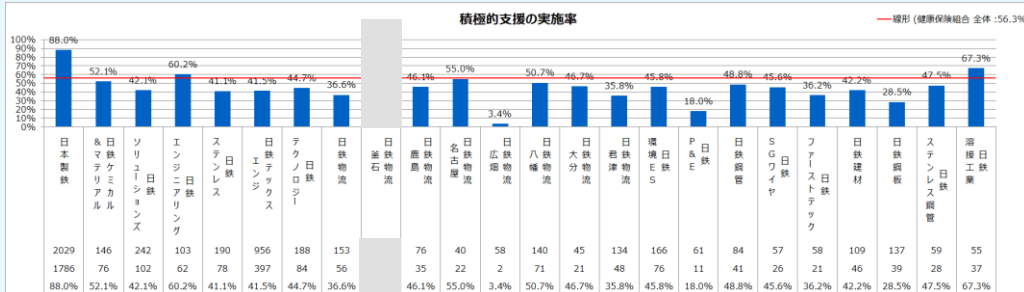
■ 特定保健指導実施率（集計対象：被保険者） 別冊1（40歳以上） P.33



■ 特定保健指導実施率 事業所別（集計対象：被保険者） 別冊2

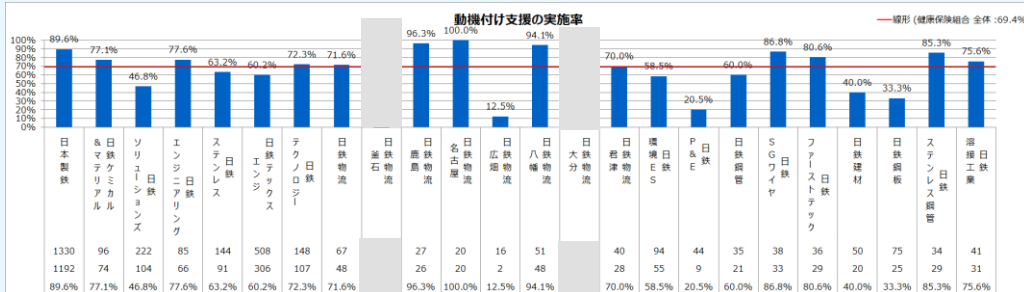


■ 特定保健指導実施率 事業所別【積極的支援レベル】（集計対象：被保険者） 別冊2



※日鉄物流釜石は対象人数が少ないため、マスキングを行っています

■ 特定保健指導実施率 事業所別【動機付け支援レベル】（集計対象：被保険者） 別冊2



※日鉄物流釜石、日鉄物流大分は対象人数が少ないため、マスキングを行っています

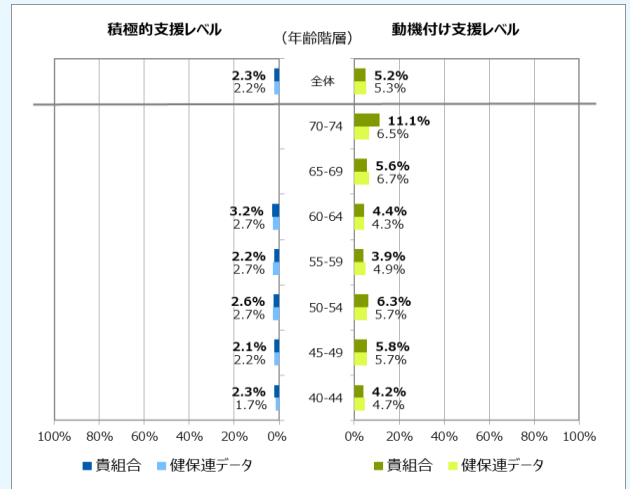
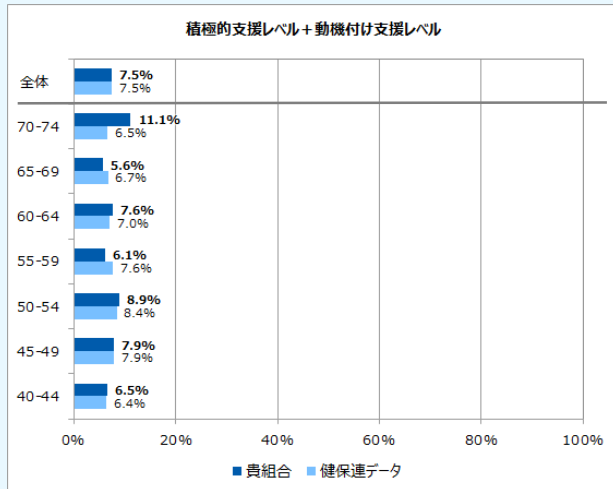
4. 特定保健指導に関する分析

(3) 特定保健指導対象者の割合・実施率（被扶養者）

- 被扶養者の特定保健指導対象者の割合については、積極的支援+動機付け支援全体では「7.5%」で、健保連データと同値です。
- 積極的支援では「2.3%」で、動機付け支援では「5.2%」です。
- 被扶養者の特定保健指導実施率については、積極的支援+動機付け支援全体では「13.0%」で、健保連データを「5.2ポイント」下回っており、低い水準と評価できます。
- 積極的支援では「15.6%」で、健保連データを「1.5ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。
- 動機付け支援では「11.9%」で、健保連データを「8.1ポイント」下回っており、低い水準と評価できます。

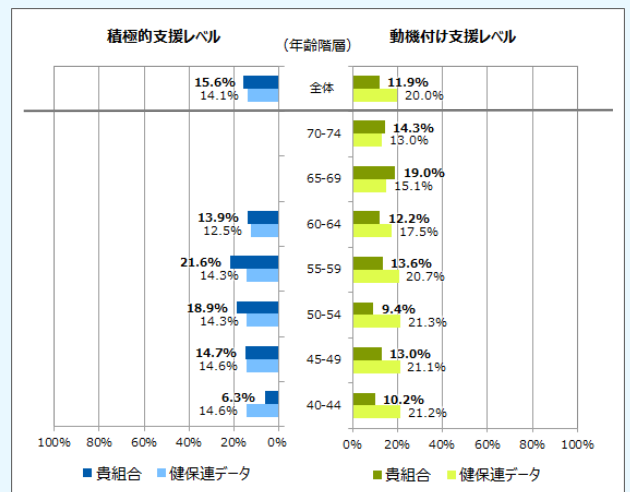
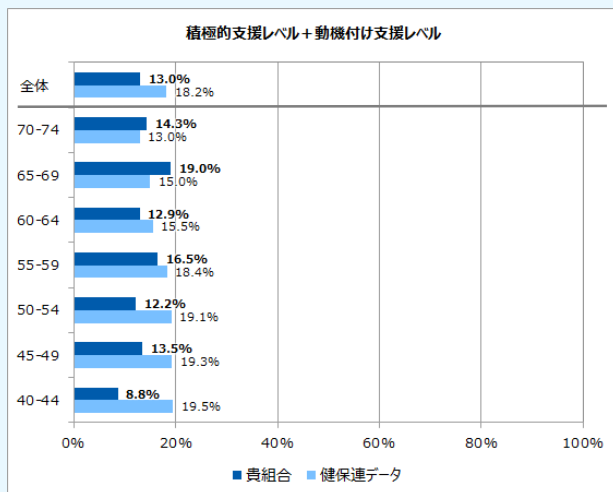
※65-69歳、70-74歳については記述していません。

■ 特定保健指導対象者の割合（集計対象：被扶養者） 別冊1（40歳以上） P.34



特定保健指導

■ 特定保健指導実施率（集計対象：被扶養者） 別冊1（40歳以上） P.34

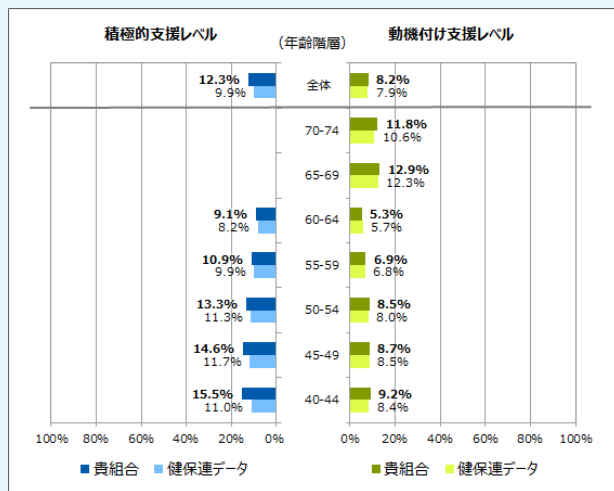
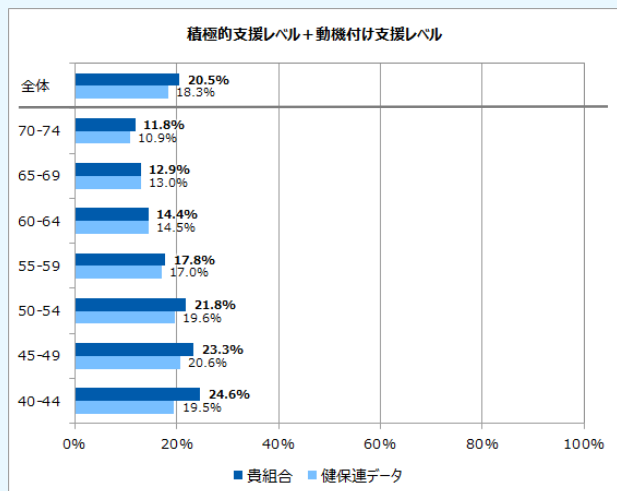


4. 特定保健指導に関する分析

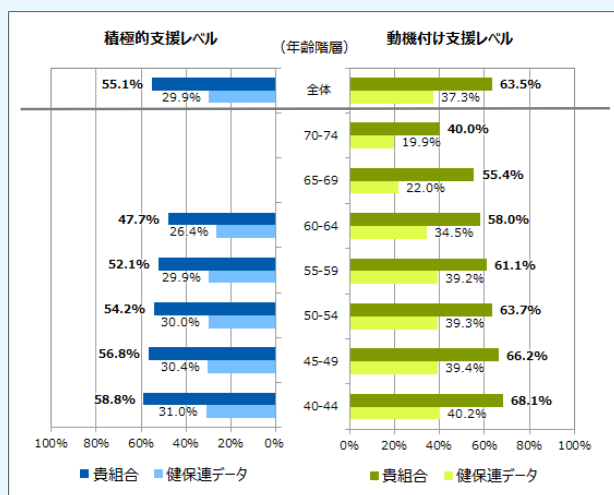
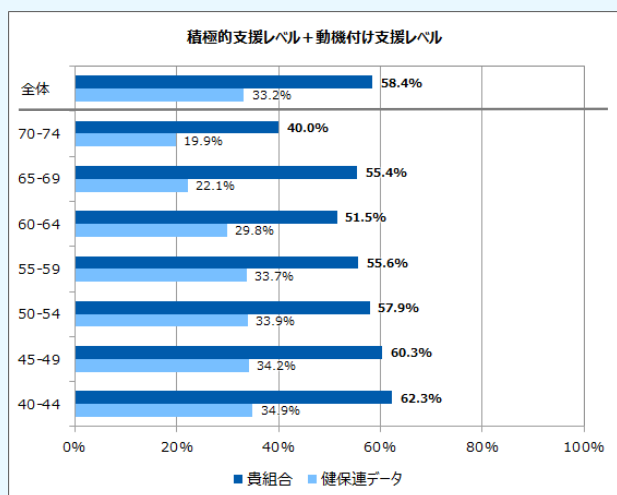
(4) 特定保健指導対象者の割合・実施率（被保険者・被扶養者）

- 被保険者・被扶養者全体の特定保健指導対象者の割合については、積極的支援+動機付け支援全体では「20.5%」で、健保連データを「2.2ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。特に「40-44歳」「45-49歳」「50-54歳」の年齢層で健保連データよりも高い水準です。
 - 積極的支援では「12.3%」で、動機付け支援では「8.2%」です。
 - 被保険者・被扶養者全体の特定保健指導実施率は、積極的支援+動機付け支援全体では「58.4%」で、健保連データを「25.2ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。
 - 積極的支援では「55.1%」で、健保連データを「25.2ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。
 - 動機付け支援では「63.5%」で、健保連データを「26.2ポイント」上回っており、高い水準と評価できます。
- ※65-69歳、70-74歳については記述していません。

■ 特定保健指導対象者の割合（集計対象：被保険者・被扶養者）別冊1（40歳以上） P.35



■ 特定保健指導実施率（集計対象：被保険者・被扶養者）別冊1（40歳以上） P.35

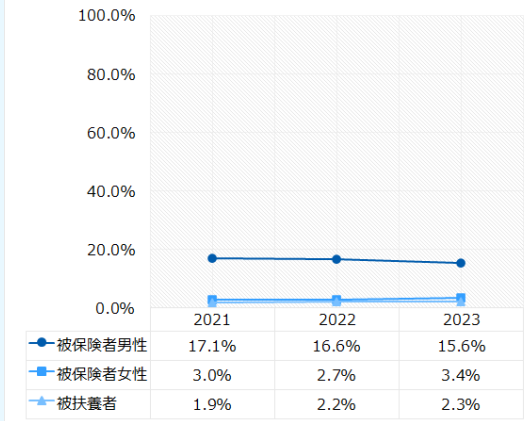


4. 特定保健指導に関する分析

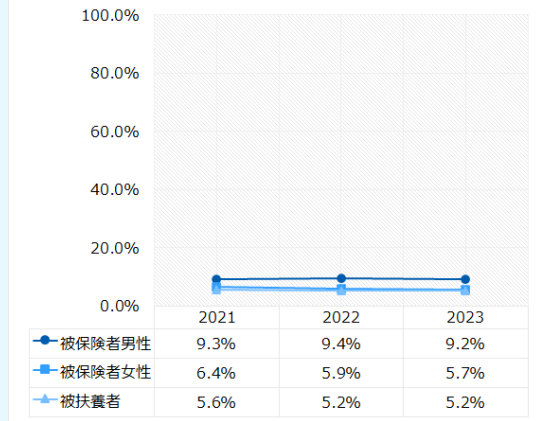
(5) 特定保健指導の経年比較

- 直近三カ年では、特定保健指導対象者の割合は、積極的支援では被扶養者は増加傾向です。動機付けでは被保険者女性はわずかに減少傾向です。特定保健指導利用率は、積極的支援では被扶養者は増加傾向です。動機付け支援では被保険者男性・女性ともに増加傾向です。一方、被扶養者は減少傾向です。
- 特定保健指導実施率は、積極的支援では被扶養者は増加傾向です。動機付け支援では被保険者男性・女性ともに増加傾向です。一方、被扶養者は減少傾向です。
- 今年度の積極的、動機付け支援の支援利用者は、すべての方が実施完了まで行われていることが確認できます。

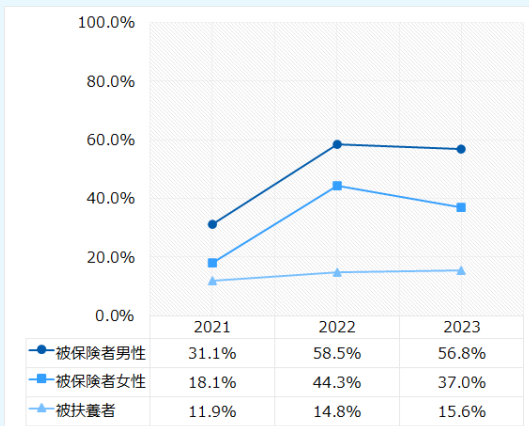
■ 特定保健指導対象者の割合 経年比較【積極的支援レベル】



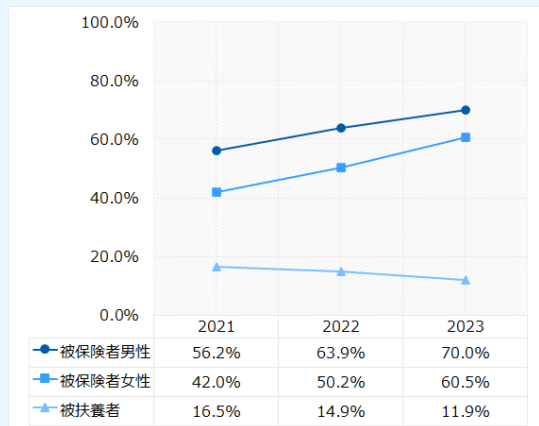
■ 特定保健指導対象者の割合 経年比較【動機付け支援レベル】



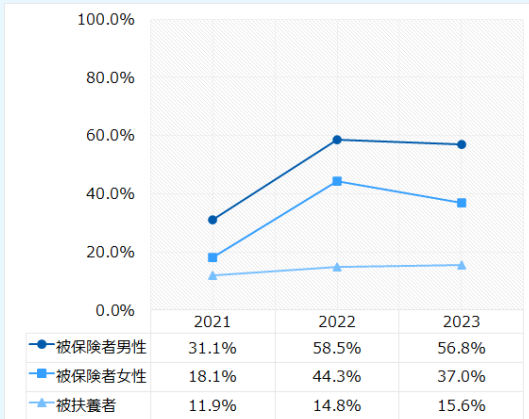
■ 特定保健指導利用率 経年比較【積極的支援レベル】



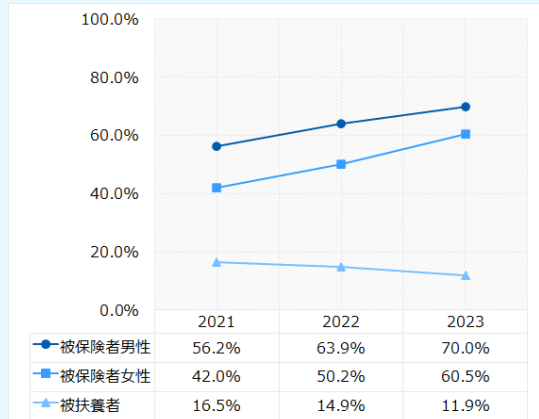
■ 特定保健指導利用率 経年比較【動機付け支援レベル】



■ 特定保健指導実施率 経年比較【積極的支援レベル】



■ 特定保健指導実施率 経年比較【動機付け支援レベル】



特定保健指導

該当率 = 指導対象者数 ÷ 評価対象者数 利用率 = (完了者数 + 未完了者数) ÷ 指導対象者数 実施率 = 完了者数 ÷ 指導対象者数 別冊1 (40歳以上) P.36

5. 医療費に関する分析

(1) 医療費総額・1人当たり医療費

- 2023年度の医療費総額は「2,788,271万円」です。
- 金額階層別医療費は、年間100万円以上の医療費を使っている人の割合は全体の「1.9%」で、金額ベースでは「36.5%」です。
- 一方、年間10万円未満の人の割合は全体の「67.4%」で、金額ベースでは「15.7%」です。
- 1人当たり年間医療費は「174,512円」で、前年度より増加しています。
- 疾病区分別の医療費総額は、「生活習慣病」と「新生物」が上位を占めます。

■ 医療費総額 別冊1 (40歳以上) P.37

		2023年度	2022年度
医療費総額	レセプト金額	2,788,271万円	2,664,160万円
	件数	2,081,303件	1,906,261件
	診療実日数	2,809,966日	2,591,344日

■ 金額階層別医療費 別冊1 (40歳以上) P.38

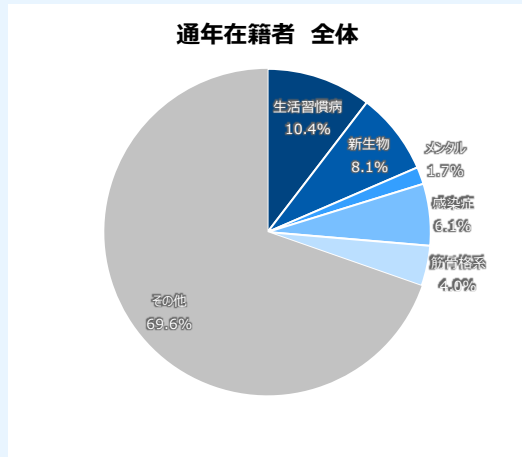
		2023年度				2022年度			
		医療費総額における割合				医療費総額における割合			
金額階層	100万円以上/年	金額	36.5%	人数	1.9%	金額	36.0%	人数	1.8%
	10万円未満/年	金額	15.7%	人数	67.4%	金額	16.5%	人数	69.2%

■ 1人当たり医療費 他組織データとの比較 別冊1 (40歳以上) P.39

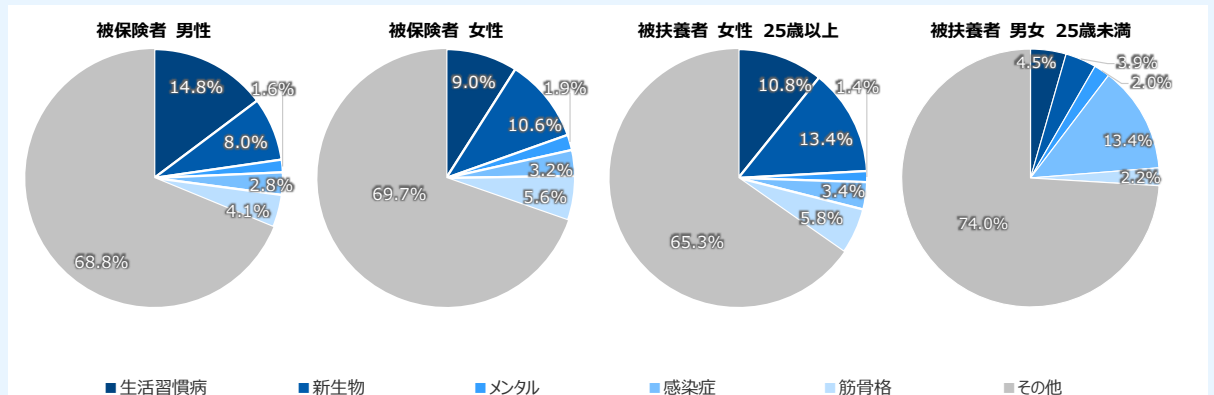
		2023年度	2022年度	2022年度他組織データ
		貴健保	貴健保	
1人(日、件) 当たり医療費	医療費/人	174,512円	165,550円	173,710円
	件数/人	13.0件	11.8件	12.1件
	日数/件	1.4日	1.4日	1.4日
	医療費/日	9,923円	10,281円	10,565円

■ 疾病区分(※)別医療費の割合 別冊1 (40歳以上) P.46

※本資料 P.4 分析の前提条件 ■レセプトの分析方法 4.を参照



■ 疾病区分(※)別医療費の割合 資格カテゴリごと 別冊1 (40歳以上) P.46

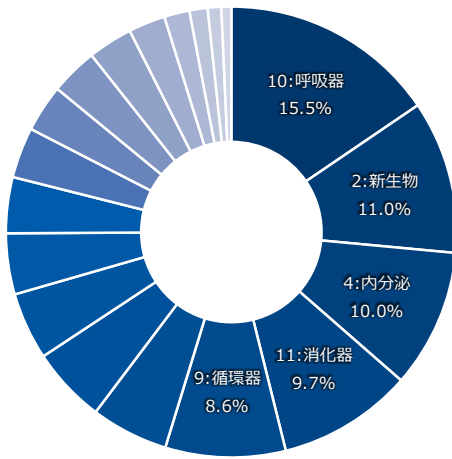


5. 医療費に関する分析

(2) 疾病大分類別医療費と疾病区分別医療費

- 疾病大分類別の医療費総額は、「10:呼吸器」「2:新生物」「4:内分泌」の順に高く、3分類合計で全体の「36.4%」を占めています。
- 疾病区分別の1人当たり年間医療費は、被保険者では「生活習慣病」「新生物」「筋骨格」、被扶養者では「感染症」「新生物」「生活習慣病」が上位を占めます。

■ 疾病大分類別医療費の割合 別冊1 (40歳以上) P.42



分類区分	レセプト金額	構成比
10:呼吸器	318,995万円	15.5%
2:新生物	226,246万円	11.0%
4:内分泌	204,866万円	10.0%
11:消化器	199,358万円	9.7%
9:循環器	177,526万円	8.6%

■ 1人当たり年間医療費 疾病区分(※)別 別冊1 (40歳以上) P.46

資格カテゴリ	人数	生活習慣病	新生物	メンタル	感染症	筋骨格
被保険者	79,690人	23,073円	13,773円	2,695円	4,741円	7,129円

資格カテゴリ	人数	生活習慣病	新生物	メンタル	感染症	筋骨格
被扶養者	80,085人	13,263円	14,546円	3,245円	16,607円	6,850円

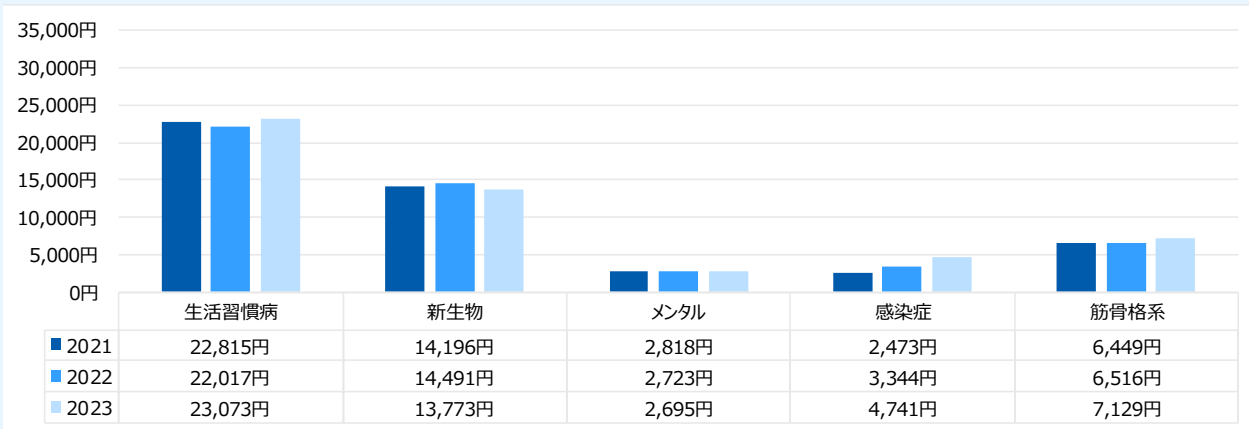
※本資料 P.4 分析の前提条件 ■レセプトの分析方法 3.4.を参照

5. 医療費に関する分析

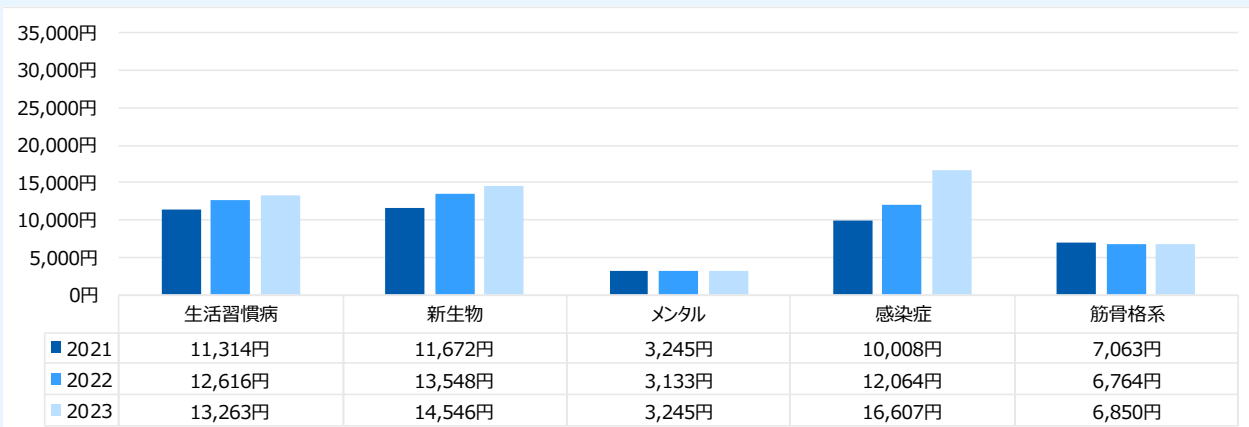
(3) 疾病区分別医療費の経年比較

- 被保険者では「生活習慣病」、被扶養者では「感染症」の1人当たり平均医療費が高いです。
- 直近三カ年での疾病区分別の1人当たり年間医療費は、被保険者では「感染症」が増加傾向です。被扶養者では「感染症」「新生物」「生活習慣病」が増加傾向です。

■ 疾病区分（※）別医療費 経年比較（集計対象：被保険者） 別冊1（40歳以上） P.56



■ 疾病区分（※）別医療費 経年比較（集計対象：被扶養者） 別冊1（40歳以上） P.56



※本資料 P.4 分析の前提条件 ■レセプトの分析方法 4.を参照

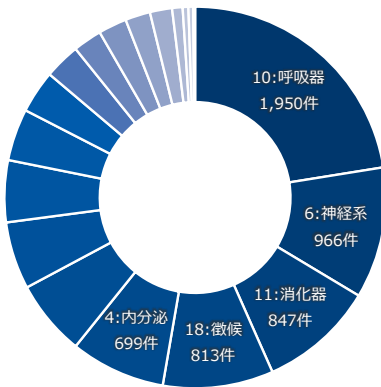
5. 医療費に関する分析

(4) 重複受診・頻回受診の状況

- 3回以上の重複受診は、疾病大分類別では「10:呼吸器」が最も件数が多いです。
- 頻回受診は、上位10名のカテゴリー・属性情報別では、被保険者で50代・40代、被扶養者で60代・20代の人が多いです。

■ 疾病大分類（※）別重複受診件数 別冊1（40歳以上） P.47

3回以上の重複受診件数



疾病大分類	1回以上の受診件数	3回以上の重複受診件数	
	件数	件数	割合
10:呼吸器	860,479件	1,950件	0.2%
6:神経系	116,943件	966件	0.8%
11:消化器	302,209件	847件	0.3%
18:徴候	150,032件	813件	0.5%
4:内分泌	292,736件	699件	0.2%
12:皮膚	285,768件	557件	0.2%
19:損傷	76,294件	496件	0.7%
13:筋骨格	213,890件	455件	0.2%
9:循環器	205,226件	382件	0.2%
2:新生物	90,157件	314件	0.3%
5:精神	125,841件	264件	0.2%
7:眼	227,980件	212件	0.1%
1:感染症	159,477件	209件	0.1%
14:腎尿	114,031件	184件	0.2%
17:先天奇形	12,731件	163件	1.3%
8:耳	75,306件	77件	0.1%
3:血液	46,968件	42件	0.1%
15:妊娠	6,667件	35件	0.5%
16:周産期	3,002件	14件	0.5%

受診件数：単月内での同名疾病による受診件数をカウントしたものです。

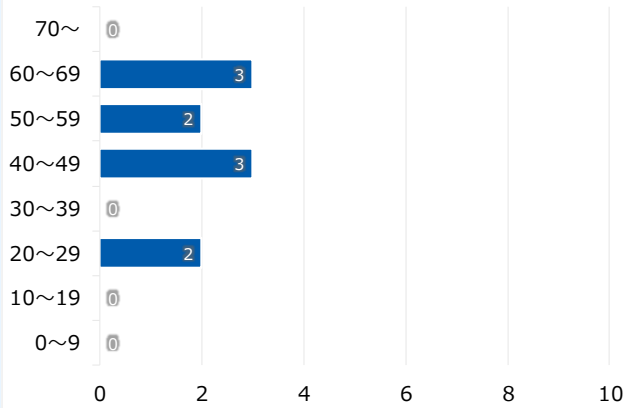
（例）感染症による受診が4月に1回、5月に2回、6月に1回の人があった場合、受診件数「1」が2件、受診件数「2」が1件とカウントされます。

※本資料 P.4 分析の前提条件 ■レセプトの分析方法 3.を参照

重複受診・頻回受診

■ 頻回受診者数 別冊1（40歳以上） P.48

頻回受診者 上位者10名の年代別人数



No	性別	被保/被扶	年齢	合計
1	女性	被扶	47歳	386日
2	女性	被扶	66歳	318日
3	男性	被保	48歳	286日
4	男性	被保	65歳	244日
5	男性	被保	53歳	234日
6	男性	被保	46歳	229日
7	女性	被扶	29歳	229日
8	男性	被扶	28歳	228日
9	女性	被扶	69歳	222日
10	男性	被保	50歳	219日

頻回受診上位者：2023年度の総受診日数を算出し、上位10名の状況を出力したものです。

5. 医療費に関する分析

(5) 重複投薬率

- 年度内に同一の月で3件以上の医療機関から同じ薬効の薬剤を処方されている患者の割合は「0.3%」です。
- 重複投薬該当者の平均年齢は9.4歳、男性比率は55.2%です。

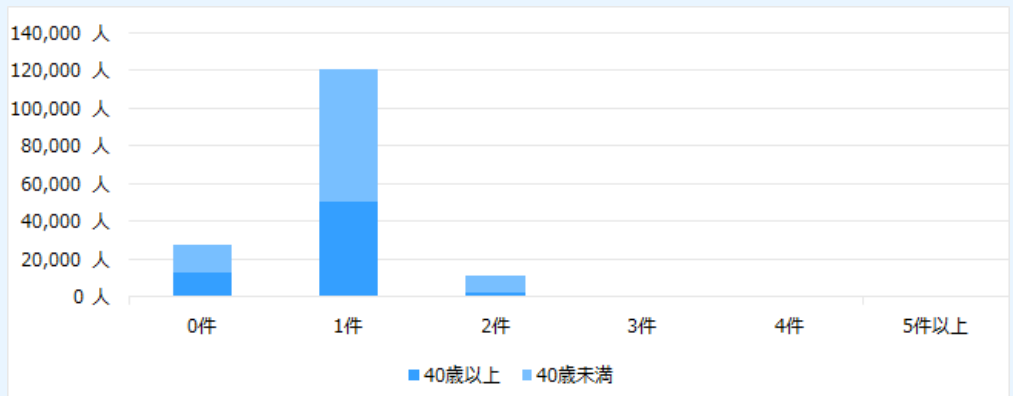
■ 重複投薬該当者割合 別冊1（40歳以上） P.49

貴組合 **0.3%**

		人数	該当率	平均年齢	男性比率
40歳以上	重複投薬該当者	38人	0.1%	51.9歳	42.1%
	対象者	65,280人	100.0%	51.9歳	61.9%
40歳未満	重複投薬該当者	437人	0.5%	5.7歳	56.3%
	対象者	94,495人	100.0%	20.1歳	60.3%
全年齢	重複投薬該当者	475人	0.3%	9.4歳	55.2%
	対象者	159,775人	100.0%	33.1歳	60.9%

■ 同一月に同一成分の薬剤を投与された医療機関件数（年度内の最大件数）別の人数分布 別冊1（40歳以上） P.49

		合計	0件	1件	2件	3件	4件	5件以上
40歳以上	人数	65,280人	12,792人	50,105人	2,345人	30人	4人	4人
	割合	100.0%	19.6%	76.8%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%
40歳未満	人数	94,495人	14,699人	70,786人	8,573人	422人	13人	2人
	割合	100.0%	15.6%	74.9%	9.1%	0.4%	0.0%	0.0%
全年齢	人数	159,775人	27,491人	120,891人	10,918人	452人	17人	6人
	割合	100.0%	17.2%	75.7%	6.8%	0.3%	0.0%	0.0%



対象者（母数） 2023年度において貴組合に在籍している加入者。

重複投薬該当者 年度内において、同一月に、同一成分の薬剤を3医療機関以上から投与された者の数。
同一対象者が複数月にまたいで該当する場合は1人としてカウント。

5. 医療費に関する分析

(6) 多剤投薬率（6剤・15剤）

- <多剤投薬患者_6剤以上>
- 年度内に同一の月で6剤以上の薬剤を処方されている患者の割合は「30.8%」です。
- <多剤投薬患者_15剤以上>
- 年度内に同一の月で15剤以上の薬剤を処方されている患者の割合は「1.4%」です。
- 多剤投薬該当者の平均年齢は、6剤以上該当者では29.2歳、15剤以上該当者では34.6歳です。

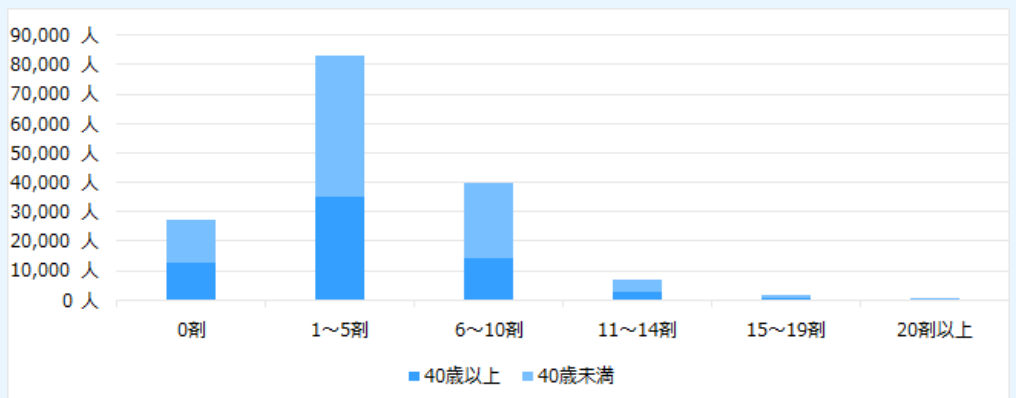
■ 多剤投薬該当者割合 別冊1（40歳以上） P.49

貴組合	6剤以上	30.8%
	15剤以上	1.4%

		人数	該当率	平均年齢	男性比率
40歳以上	6剤以上	17,645 人	27.0%	53.1 歳	57.0%
	15剤以上	1,101 人	1.7%	54.5 歳	45.7%
	対象者	65,280 人	100.0%	51.9 歳	61.9%
40歳未満	6剤以上	31,590 人	33.4%	15.8 歳	55.2%
	15剤以上	1,121 人	1.2%	15.0 歳	52.6%
	対象者	94,495 人	100.0%	20.1 歳	60.3%
全年齢	6剤以上	49,235 人	30.8%	29.2 歳	55.8%
	15剤以上	2,222 人	1.4%	34.6 歳	49.2%
	対象者	159,775 人	100.0%	33.1 歳	60.9%

■ 同一月に投与された薬剤数（年度内の最大数）別の人数分布 別冊1（40歳以上） P.49

	合計	0剤	1～5剤	6～10剤	11～14剤	15～19剤	20剤以上	
40歳以上	人数	65,280 人	12,780 人	34,855 人	13,959 人	2,585 人	832 人	269 人
	割合	100.0%	19.6%	53.4%	21.4%	4.0%	1.3%	0.4%
40歳未満	人数	94,495 人	14,688 人	48,217 人	25,946 人	4,523 人	959 人	162 人
	割合	100.0%	15.5%	51.0%	27.5%	4.8%	1.0%	0.2%
全年齢	人数	159,775 人	27,468 人	83,072 人	39,905 人	7,108 人	1,791 人	431 人
	割合	100.0%	17.2%	52.0%	25.0%	4.4%	1.1%	0.3%



対象者（母数） 2023年度において貴組合に在籍している加入者。

多剤投薬該当者 年度内において、同一月に、6剤又は15剤以上の薬剤を投与された者の数。
同一対象者が複数月にまたいで該当する場合は1人としてカウント。

5. 医療費に関する分析

(7) ジェネリック医薬品使用状況

- 後発医薬品ありの先発医薬品が、すべて後発医薬品に移行した場合の削減可能金額は「64,595万円」です。
- 資格カテゴリ別では、「被保険者男性」の削減可能金額が最も大きいです。

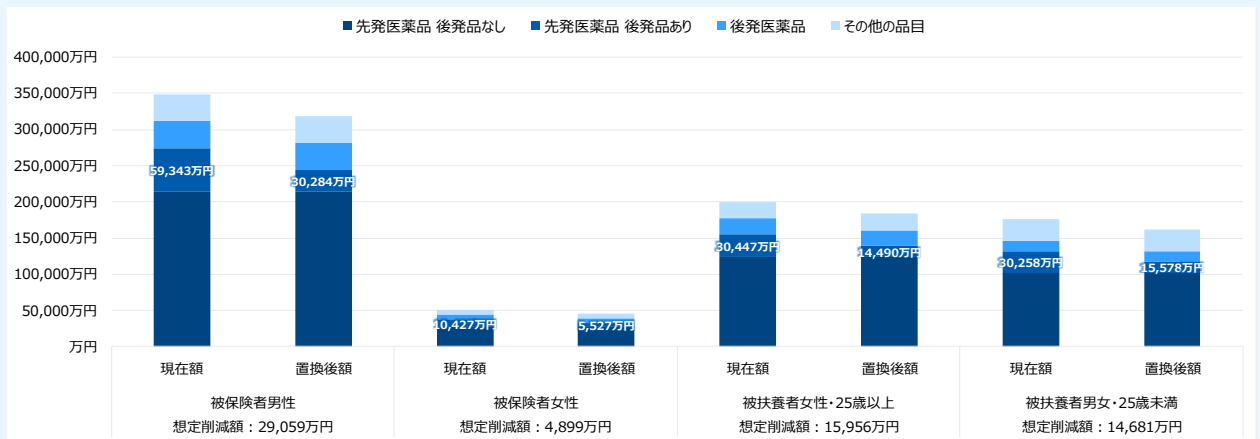
■ ジェネリック置換期待効果額 資格カテゴリごと 別冊1（40歳以上） P.50

※「被扶養者 男性 25歳以上」は金額が少ないため割愛しています。

資格カテゴリ	現在の金額と ジェネリック置換後の金額	先発医薬品		後発医薬品	その他の品目	合計
		後発品なし	後発品あり			
被保険者男性	現在額	214,210万円	59,343万円	37,893万円	36,590万円	348,035万円
	置換後額	214,210万円	30,284万円	37,893万円	36,590万円	318,976万円
被保険者女性	現在額	27,465万円	10,427万円	6,588万円	6,519万円	50,998万円
	置換後額	27,465万円	5,527万円	6,588万円	6,519万円	46,099万円
被扶養者女性・25歳以上	現在額	124,492万円	30,447万円	22,039万円	22,433万円	199,410万円
	置換後額	124,492万円	14,490万円	22,039万円	22,433万円	183,454万円
被扶養者男女・25歳未満	現在額	102,152万円	30,258万円	14,297万円	29,265万円	175,972万円
	置換後額	102,152万円	15,578万円	14,297万円	29,265万円	161,292万円
総計	現在額	468,318万円	130,475万円	80,817万円	94,806万円	774,416万円
	置換後額	468,318万円	65,879万円	80,817万円	94,806万円	709,821万円
	削減可能金額		0万円	64,595万円	0万円	0万円

■ ジェネリック置換時の総医薬品額の変化 資格カテゴリごと 別冊1（40歳以上） P.50

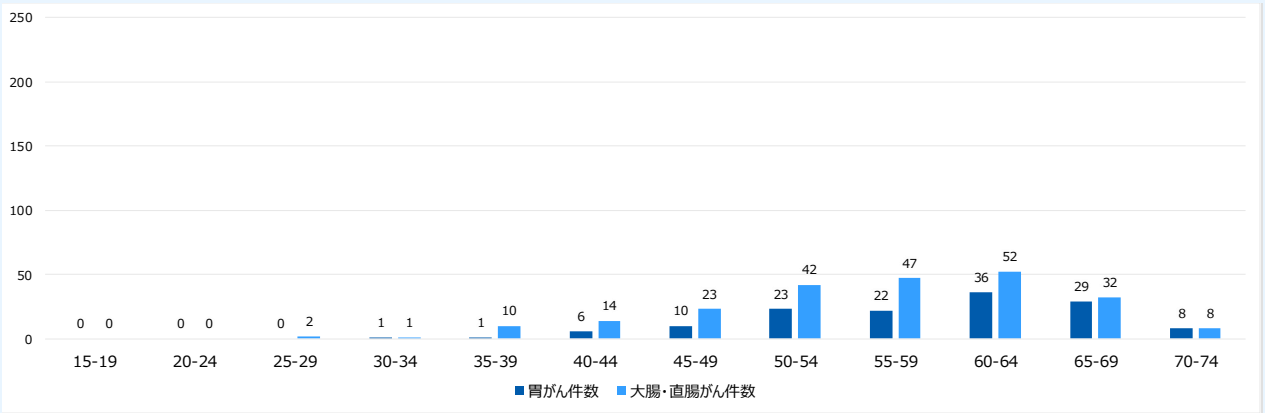
※「被扶養者 男性 25歳以上」は金額が少ないため割愛しています。



8. がんの受療人数・医療費合計

- 男性では「25-29歳」以降からがんの罹患者が発生しています。
- 女性では「25-29歳」以降からがんの罹患者が発生しています。特に「乳がん」は罹患者が多くなっています。

■ がん罹患数【男性】 年代ごと（集計対象：被保険者・被扶養者） 別冊1（40歳以上） P.92

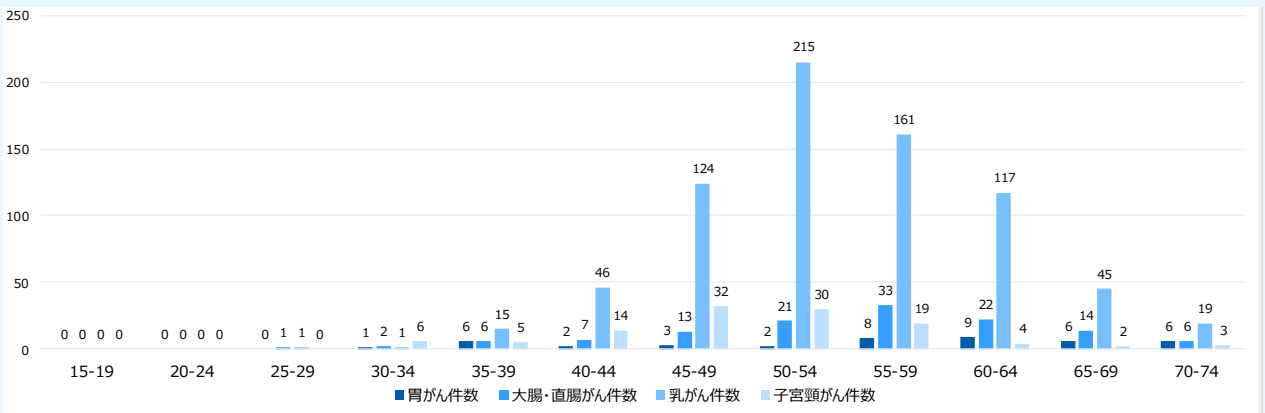


種別	医療費合計	件数
胃がん	¥35,692,845	136
大腸・直腸がん	¥83,659,965	231

※疑い病名除く

がん

■ がん罹患数【女性】 年代ごと（集計対象：被保険者・被扶養者） 別冊1（40歳以上） P.92



種別	医療費合計	件数
胃がん	¥10,532,494	43
大腸・直腸がん	¥42,795,773	125
乳がん	¥247,429,955	744
子宮頸がん	¥6,614,943	115

※疑い病名除く